

前項ノ規定ニ依リテ相手方ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ廢除セラレタル相續人カ訴ヲ提起スルトキハ被相續人ヲ以テ相手方トシ被相續人カ訴ヲ提起スルトキハ檢事ヲ以テ相手方トス

第五百六十八條 被相續人カ廢除ノ取消ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ相手方ト爲リタル相續人カ死亡シ其者ト同順位ニ於テ相續人タル直系卑屬ナキトキハ檢事訴訟手續ヲ受繼ス

廢除セラレタル相續人カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ相手方ト爲リタル相續人カ死亡シ其者ト同順位ニ於テ相續人タル直系卑屬ナキトキハ被相續人訴訟手續ヲ受繼シ被相續人カ死亡シタルトキハ檢事訴訟手續ヲ受繼ス
廢除セラレタル相續人カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ相手方ト爲リタル被相續人カ死亡シタルトキハ檢事訴訟手續ヲ受繼ス

檢事カ當事者ト爲リタル後相手方カ死亡シタルトキハ裁判所ハ訴訟手續受

繼ノ爲メ辯護士ヲ承繼人トシテ選任スヘシ此場合ニ於テハ第六十一條第二

項、第三項及ヒ第五百三十條第四項ノ規定ヲ準用ス

第五百六十九條 廢除セラレタル相續人カ判決ノ確定前ニ死亡シタルトキハ訴訟ハ完結シタルモノト看做ス

第五百七十條 隱居ノ取消又ハ無効ノ訴ハ隱居者ノ普通裁判籍所在地ノ地方裁判所ノ專屬管轄トス

第五百七十一條 隱居者カ訴ヲ提起スルトキハ家督相續人ヲ以テ相手方トス
家督相續人カ訴ヲ提起スルトキハ隱居者ヲ以テ相手方トス

第三者カ訴ヲ提起スルトキハ隱居者及ヒ家督相續人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第一項ノ場合ニ於テ家督相續人カ死亡シタルトキハ檢事訴訟手續ヲ受繼ス
隱居者カ判決ノ確定前ニ死亡シタルトキハ訴訟ハ完結シタルモノト看做ス

第五百七十二條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其證據調ノ結果及ヒ其事實ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第五百七十三條 第三百二十四條第二項、第三項、第二百五十九條、第三百八十七條ノ規定及ヒ裁判上ノ自白ニ關スル規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ適用セス

第五百七十四條 第五百二十八條第二項、第三項、第五百三十條、第五百三十一條、第五百三十四條第二項、第五百三十八條、第五百三十九條、第五百四十二條、第五百四十三條、第五百四十六條、第五百五十一條、第五百五十四條及ヒ第五百五十六條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第五百三十四條第一項、第五百三十五條及ヒ第五百三十六條ノ規定ハ第五百六十二條、第五百六十五條、第五百七十條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ取消若クハ無効ノ訴ニ之ヲ準用ス

第五百四十八條、第五百五十條及ヒ第五百五十二條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ノ訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第五百四十五條第二項ノ規定ハ子ノ否認、認知、其認知ノ取消若クハ無効ノ訴ヲ提起シタル者、第五百六十一條第二項ノ場合ニ於テ原告ト爲リタル配偶者、同條第三項ノ規定ニ依リテ訴ヲ提起シタル母又ハ隱居ノ取消若クハ無効ノ訴ヲ提起シタル家督相續人若クハ第三者カ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十四條ノ規定ハ第五百六十一條第三項及ヒ第五百七十一條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

第五百七十五條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ノ普通裁判籍所
在地ノ區裁判所ノ專屬管轄トス

第五百二十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ付キ之ヲ準用ス
第五百七十六條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ
要セス

第五百七十七條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ記載スヘシ

第五百七十八條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ提出ヲ命スルコト
ヲ得

第五百七十九條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第五百八十條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ申立其
他ノ訴訟手續ヲ爲シ日期日ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタルトキハ其氏名及ヒ申立
ヲ調書ニ記載スヘシ

第五百八十一條 裁判所ハ申立ニ記載シタル事實及ヒ證據方法ヲ斟酌シ職權
ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

第二編第一章第六節及ヒ第七節ノ規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ付キ之ヲ
準用ス但探知及ヒ證據調ノ費用ハ申立人ヨリ豫納セサルトキハ國庫ヨリ之
ヲ立替フヘシ

第五百八十二條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者ヲ
訊問スヘシ但其訊問ヲ爲シ難キトキ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ
在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百八十三條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人ヲ訊問シタル後ニ

非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百八十四條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告アリタル

トキハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢事カ申立ヲ爲シタ

ルトキハ國庫ノ負擔トス

第五百八十五條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其宣告ヲ受クヘキ

者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ

宣告ヲ爲シタル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第九百四十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百八十六條 禁治産ノ申立ヲ却下スル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人及ヒ

檢事ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告スル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事及ヒ禁治産者ノ法定代理

人又ハ法律ノ規定ニ依リテ後見人ト爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五百八十七條 禁治産ヲ宣告スル決定ハ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ノ

規定ニ依リテ後見人ト爲ルヘキ者カ其送達ヲ受ゲタル時ヨリ其效力ヲ生シ

法定代理人又ハ法律ノ規定ニ依リテ後見人ト爲ルヘキ者ナキトキハ檢事カ

送達ヲ受ケタル時ヨリ其效力ヲ生ス

第五百八十八條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達シタルトキハ直チ

ニ之ヲ公告スヘシ

第五百八十九條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテ即

時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百七十八條乃至第五百八十一條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手續ニ之ヲ準用

ス

第五百九十條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ其宣

告ニ對シ一個月内ニ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ效力ヲ生シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第五百九十一條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ專屬管轄トス

第五百九十二條 第五百九十條第一項ノ訴ニ付テハ禁治産ノ申立人ヲ以テ相手方トス

禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トシ檢事カ訴ヲ提起スルトキハ禁治産者ノ法定代理人ヲ以テ相手方トス

第五百九十三條 第五百九十條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百九十四條 禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者カ判決ノ確定前ニ死亡シタルト

キハ訴訟ハ完結シタルモノト看做ス

第五百九十五條 第五百三十條、第五百三十二條、第五百三十八條、第五百四十四條、第五百五十四條、第五百七十三條、第五百八十二條及ヒ第五百八十三條ノ規定ハ第五百九十條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第五百四十五條第二項ノ規定ハ訴ヲ提起シタル者カ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十六條 裁判所カ第五百九十條第一項ノ訴ヲ理由アリト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘシ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第五百九十七條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ後見人カ爲シタル行爲ハ其效力ヲ失ハス

禁治産ノ宣告ノ取消前ニ禁治産者カ爲シタル行爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百九十八條 禁治産ノ宣告ヲ取消ス判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第五百九十九條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求

ムル申立ハ禁治産者ノ普通裁判籍所在地ノ地方裁判所ノ専屬管轄トス

第五百二十八條第二項、第二項及ヒ第五百七十七條乃至第五百八十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタルトキハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢察カ申立ヲ爲シタ

ルトキハ國庫ノ負擔トス

第六百一條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下スル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消ス決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢察及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第五百九十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢察ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六百二條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五百九十一條乃至第五百九十六條、第五百九十七條第一項及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六百三條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第五百七十八條、第五百八十二條及ヒ第五百八十三條ノ規定ハ浪費者ニハ之ヲ適用セス

第六百四條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百五條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章 失踪ニ關スル手續

第六百六條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ後十條ニ定メタルモノノ外第九百五十二條乃至第九百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百七條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ專屬管轄トス

第五百二十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ付キ之ヲ準用ス

第六百八條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト
 - 二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト
- 公示催告期間ハ六個月以上ナルコトヲ要ス

第六百九條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタルトキハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二個月以上ナルヲ以テ足ル

第六百十條 檢事ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第五百七十七條第二項、第五百八十條第二項及ヒ第五百八十一條ノ規定ハ

本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第六百十一條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第六百十二條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第六百十三條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第六百十四條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トス

第五百四十五條第二項ノ規定ハ訴ヲ提起シタル者カ死亡シタル場合ニ之ヲ

準用シ第五百五十四條ノ規定ハ檢事カ相手方ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十五條 數箇ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ第五百八十條ノ規定ヲ適用ス

第六百十六條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスルトキハ第九百六十二條ノ規定ヲ適用セス

第七編 督促手續

第六百十七條 一定ノ金額ノ支拂又ハ金錢ニ非サル代替物ノ一定ノ數量若クハ有價證券ノ一定ノ員數ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ本編ノ規定ニ從ヒテ支拂命令ヲ發スルコトヲ得

申立ノ趣旨ニ依レハ申立人カ反對給付ヲ爲スニ非サレハ請求ヲ爲スコトヲ得サルトキ又ハ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ニ依リテ

爲スヘキトキハ督促手續ヲ許サス

二〇八

第六百十八條 支拂命令ハ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ事物ノ管轄ニ關スル制限ナキモノト看做シ第十條、第二十五條又ハ第二十七條ノ規定ニ依リ土地ノ管轄ヲ有スル區裁判所ノ專屬管轄トス

第六百十九條 支拂命令ノ申立ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ表示
- 二 請求ノ一定ノ金額又ハ目的物及ヒ請求ノ原因タル事實
- 三 支拂命令ヲ求ムル旨ノ陳述
- 四 裁判所ノ表示

第六百二十條 支拂命令ノ申立カ前三條ノ規定ニ適セサルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依レハ請求ノ理由ナキコト若クハ現ニ理由ナキコト明ナルトキハ申立ヲ却下スヘシ

請求ノ一部ニ付キ支拂命令ヲ爲スコトヲ得サルトキハ支拂命令ノ申立ヲ却下スヘシ

却下ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六百二十一條 支拂命令ハ豫メ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發ス

支拂命令ニハ第六百十九條第一號、第二號及ヒ第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ且強制執行ヲ避ケント欲セハ命令ノ送達ヨリ十四日ノ期間内ニ請求及ヒ命令ニ掲ケタル手續ノ費用ヲ債權者ニ辨濟スルカ又ハ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スヘキ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ期間ハ手形ニ因ル請求ニ付テハ二十四時間、其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテニ短縮スルコトヲ得

第六百二十二條 支拂命令ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ送達スヘシ
支拂命令ノ送達ハ權利拘束ノ效力ヲ生ス

二〇九

支拂命令ヲ債務者ニ送達シタルトキハ其旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第六百二十三條 債務者ハ支拂命令ニ記載シタル請求ノ全部又ハ一部ニ對シ
異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

債務者カ適當ナル時期ニ異議ヲ申立テタルトキハ裁判所ハ其旨ヲ債權者ニ
通知スヘシ

裁判所書記ハ債務者ノ申立ニ因リ適當ナル時期ニ異議ノ申立アリタル旨ノ
證明書ヲ付與スヘシ

適當ナル時期ニ申立テサル異議ハ之ヲ却下スルコトヲ要セス

第六百二十四條 債務者カ請求ノ全部又ハ一部ニ對シ適當ナル時期ニ異議ヲ
申立テタルトキハ支拂命令ハ其效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ權利拘束ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第六百二十五條 債務者カ適當ナル時期ニ異議ヲ申立テタル場合ニ於テ請求

ニ付キ提起スヘキ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ支拂命令ノ送達ニ依
リ其命令ヲ發シタル區裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ異議ノ申立アリタル日ト口頭辯論ノ期日トノ間ニハ少
クトモ三日ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

第四百二十六條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ之ヲ適用ス

第六百二十六條 請求ニ付キ提起スヘキ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合
ニ於テ債權者カ異議ノ申立アリタル旨ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ一个月ノ期
間内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルトキハ支拂命令ノ送達ニ依リテ生シタル
權利拘束ハ其效力ヲ失フ

第六百二十七條 督促手續ノ費用ハ適當ナル時期ニ異議ノ申立アリタル場合
ニ於テハ訴訟ニ付キ生シタル費用ノ一部ト看做ス
前條ノ場合ニ於テ期間内ニ訴ヲ起ササルトキハ督促手續ノ費用ハ債權者之

ヲ負擔スヘシ

一一二

第六百二十八條 裁判所ハ支拂命令ニ掲ケタル期間ノ滿了後債權者ノ申立ニ因リテ支拂命令ヲ假ニ執行スルコトヲ得ル旨ヲ宣言スヘシ但假執行ノ宣言前債務者カ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
假執行ノ宣言ハ支拂命令ニ附スヘキ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス
執行命令ニハ債權者ノ計算ニ基キ執行命令ノ送達ニ至ルマテノ手續ノ費用額ヲ記載スヘシ

假執行宣言ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六百二十九條 執行命令ハ假執行ノ宣言アリタル闕席判決ト看做ス

執行命令ニ對シテハ債務者ヨリ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第二百九十四條第二項乃至第四項及ヒ第二百九十五條乃至第三百一條ノ規定ハ執行命令ニ對スル故障ニ之ヲ適用ス

第六百三十條 執行命令ニ對シ故障ノ申立アリタル場合ニ於テ請求カ區裁判

所ノ管轄ニ屬セザルトキハ區裁判所ハ方式及ヒ期間ヲ遵守シテ申立テタル

故障ナルヤ否ヤニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ第六百二十

六條ニ掲ケタル期間ハ故障ヲ許ス判決ノ確定ヨリ之ヲ起算ス

第六百三十一條 債權者カ支拂命令ニ掲ケタル期間ノ滿了後一個月ノ期間内

ニ執行命令ノ申立ヲ爲サザルトキハ支拂命令及ヒ權利拘束ハ其效力ヲ失フ

適當ナル時期ニ爲シタル執行命令ノ申立カ却下セラレタルトキ亦同シ

第八編 強制執行

第一章 總則

第六百三十二條 強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言アリタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第六百三十三條 原狀回復ノ申立又ハ取消若クハ再審ノ申立アルトキハ裁判

一一三

所ハ申立ニ因リ擔保ヲ供セシメ若クハ之ヲ供セシメスシテ強制執行ヲ一時停止スヘキ旨ヲ命シ又ハ擔保ヲ供セシメテ強制執行ヲ爲シ若クハ強制執行處分ヲ取消スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得但擔保ヲ供セシメスシテ強制執行ヲ停止スル裁判ハ強制執行ニ因リテ償フコト能ハサル損害ヲ生スル虞アルコトヲ疏明シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六百三十四條 受訴裁判所ハ其判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命令ヲ爲シ又ハ既ニ爲シタル命令ヲ取消シ、變更シ若クハ認可スルコトヲ得
第四百五十九條ノ規定ハ前項ノ裁判ニ對シテ不服ノ申立アル場合ニ之ヲ準用ス

第六百三十五條 前二條ノ規定ハ假執行ノ宣言アリタル判決ニ對シテ故障ノ

申立又ハ上訴ノ提起アル場合ニ之ヲ準用ス

第六百三十六條 第二百六十五條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ差押ヘタル金錢又ハ差押物ノ賣得金ハ之ヲ供託スヘシ

第六百三十七條 外國裁判所ノ判決ニ因ル強制執行ハ日本ノ裁判所カ執行判決ヲ以テ執行ノ許スヘキモノナルコトヲ宣言シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

執行判決ヲ求ムル訴ハ債務者ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ノ管轄トス債務者ノ普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキ裁判所ノ管轄トス

第六百三十八條 執行判決ハ外國裁判所ノ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲スヘシ

外國裁判所ノ判決ガ效力ヲ有セサルモノナルトキハ執行判決ノ請求ヲ棄却スヘシ

第六百三十九條

強制執行ハ執行正本ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
執行正本ヲ求ムル申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十條

執行正本ハ申立ニ因リテ第一審裁判所ノ書記之ヲ付與シ訴訟記録カ上級裁判所ニ在ルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與スヘシ

第六百四十一條

第一審裁判所ノ書記カ執行正本ヲ付與スル爲メ上級裁判所ノ判決ノ正本ヲ作ルヘキトキハ記録ニ添附シタル判決ノ認證謄本ニ基キテ之ヲ作ルヘシ

第六百四十二條

執行正本ヲ付與スヘキトキハ裁判所書記ハ其作成シタル判決正本又ハ當事者ノ差出シタル判決正本ノ末尾ニ被告、原告又ハ第三者ニ對シ強制執行ノ爲メ原告、被告又ハ第三者ニ之ヲ付與スル旨ノ執行文ヲ附

記シテ之ヲ交付スヘシ

執行文ニハ裁判所書記署名、捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第六百四十三條

執行正本ハ判決カ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限り之ヲ付與スヘシ

判決カ其趣旨ニ依レハ或事實ノ到來シタルトキニ限り執行スルコトヲ得ヘキモノナルトキハ債權者カ書面ニ依リテ其事實ノ到來シタルコトヲ證スルニ非サレハ執行正本ヲ付與スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ擔保ヲ供シタルトキニ限り判決ヲ執行スルコトヲ得ヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第六百四十四條

執行正本ハ債權者ノ承繼人ノ爲メ又ハ第二百八十五條ノ規定ニ依リ判決ノ效力カ及フヘキ債務者ノ承繼人若クハ請求ノ目的物ノ占有者ニ對シテ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼又ハ占有關係ハ裁判所ニ於テ顯

著ナル場合ヲ除ク外之ヲ證スルコトヲ要ス

執行正本ニハ承繼ノ證明アリタルコト又ハ承繼カ顯著ナルコトヲ記載スヘシ

第六百四十五條 前條ノ規定ハ第七十三條又ハ第七十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヨリ脱退シタル被告ニ對シテ執行正本ヲ付與スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十六條 前三條ノ場合ニ於テハ裁判長ノ命令アルニ非サレハ執行正本ヲ付與スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リテ付與スル執行正本ニハ裁判長ノ命令アリタルコトヲ記載スヘシ

裁判長ハ命令前ニ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

第六百四十七條 債權者カ第六百四十三條第二項、第六百四十四條第一項但書又ハ第六百四十五條ノ證明ヲ爲スコト能ハサルトキハ第一審ノ受訴裁判

所ニ執行正本ノ付與ヲ求ムル訴ヲ提起スルコトヲ得

第六百四十八條 債務者カ執行正本ノ付與ニ對シテ異議ヲ申立テタルトキハ執行正本ヲ付與シタル裁判所書記所屬ノ裁判所其異議ニ付キ裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ裁判前ニ擔保ヲ供セシメ若クハ之ヲ供セシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ擔保ヲ供セシメテ之ヲ續行スヘキ旨ヲ命シ其他相當ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第六百四十九條 債權者カ數通ノ執行正本ヲ求メ又ハ更ニ同一ノ執行正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルニ非サレハ之ヲ付與スルコトヲ得ス

數通ノ執行正本ヲ付與シ又ハ更ニ同一ノ執行正本ヲ付與スルトキハ其旨及ヒ裁判長ノ命令アリタルコトヲ其執行正本ニ記載スヘシ

數通ノ執行正本ヲ付與シ又ハ更ニ同一ノ執行正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ債務者ニ通知スヘシ

裁判長ハ命令前ニ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

第六百五十條 裁判所書記ハ執行正本ヲ付與スル前判決原本ニ原告、被告又ハ第三者ノ爲メニ之ヲ付與スル旨及ヒ之ヲ付與スル年月日ヲ記載スヘシ

第一審裁判所ノ書記カ上級裁判所ノ判決ニ基キテ執行正本ヲ付與スルトキハ記録ニ添附シタル判決ノ認證謄本ニ前項ノ記載ヲ爲スヘシ

第六百五十一條 債權者ハ數通ノ執行正本ニ基キ同時ニ數箇ノ地ニ於テ又ハ數箇ノ方法ヲ以テ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第六百五十二條 強制執行ハ之ヲ爲ス者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名カ判決又ハ之ニ附記シタル執行文ニ記載アリ且既ニ判決ヲ送達シ又ハ同時ニ送達スルニ非サレハ之ヲ始ムルコトヲ得ス

第六百四十三條第二項、第六百四十四條及ヒ第六百四十五條ノ規定ニ從ヒ執行正本ヲ付與スヘキ場合ニ於テハ執行セントスル判決ノ外既ニ執行正本ヲ送達シ又ハ同時ニ送達スルニ非サレハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得ス
證明書ニ因リ執行正本ヲ付與スル場合ニ於テハ強制執行ヲ始ムル前ニ其證明書ノ謄本ヲモ併セテ送達シ又ハ強制執行ヲ爲スト同時ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第六百五十三條 日時ノ到來ニ因リテ實行スルコトヲ得ヘキ請求ニ付テハ其日時ノ經過後ニ非サレハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得ス

債權者カ擔保ヲ供シテ強制執行ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ書面ニ依リ擔保ヲ供シタルコトヲ證シ且既ニ其謄本ヲ送達シ又ハ同時ニ送達スルニ非サレハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得ス

第六百五十四條 豫備又ハ後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人又ハ軍屬ニ對スル強制

執行ハ其上班司令官廳ニ通知シタル後ニ非サレハ之ヲ始ムルコトヲ得ス

前項ノ官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ヲ受ケタル旨ノ證明書ヲ付與スヘシ

第六百五十五條 強制執行ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外執達吏之ヲ行フ

第六百五十六條 執達吏ハ其職務ノ執行ニ付キ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ

テ債權者其他ノ利害關係人ニ生セシメタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第六百五十七條 執達吏ニ依リテ強制執行ヲ爲サントスル者ハ執行行爲地ヲ

管轄スル區裁判所所屬ノ執達吏ニ執行正本ヲ交付シテ強制執行ヲ請求スヘシ

第六百五十八條 前條ノ規定ニ依リテ強制執行ノ請求ヲ受ケタル執達吏ハ債

權者ノ爲メニ辨濟ヲ受ケ、受取證書ヲ作りテ之ヲ債權者ニ交付シ及ヒ債務者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ之ニ執行正本ヲ交付スルコトヲ得

第六百五十九條 執行正本ヲ所持スル執達吏ハ債務者及ヒ第三者ニ對シテ強

制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

執達吏カ執行正本ヲ所持スル限りハ債權者ハ債務者及ヒ第三者ニ對シテ執達吏ニ強制執行ヲ請求セサリシ旨ヲ主張スルコトヲ得ス

第六百六十條 執達吏カ辨濟ヲ受ケタルトキハ執行正本及ヒ受取證書ヲ債務

者ニ交付シ一部ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ執行正本ニ其旨ヲ記載シ債務者ニ受取證書ノミヲ交付スヘシ

前項ノ規定ハ債務者カ債權者ニ對シテ受取證書ヲ請求スル權利ヲ妨ケス

第六百六十一條 執達吏ハ強制執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テ債務者ノ住居、事務所、倉庫、筐篋其他ノ容具ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐篋其他ノ容具ヲ開カシムル爲メ適宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得

執達吏ハ抵抗ヲ受ケタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ威力ヲ用井且警察

吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ所屬區裁判所ニ其旨ヲ申立ツヘシ

第六百六十二條 執達吏カ強制執行ヲ爲スニ當タリ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居若クハ事務所ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ當タリ債務者、成長シタル家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成年ノ男子二人又ハ市、區、町、村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ但警察吏ノ援助ヲ求メタル場合ニ於テハ證人ヲ立會ハシムルコトヲ要セス

執行行爲ヲ爲ス場所ノ情況ニ因リ立會ハシムヘキ人ヲ得ルニ困難ナルトキハ執達吏ハ證人ヲ立會ハシメスシテ執行行爲ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 執達吏ハ強制執行ニ付キ利害關係ヲ有スル者ノ請求ニ因リテ記録ノ閲覽ヲ許シ且手数料ヲ納付スルトキハ其記録中ニ存スル書類ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第六百六十四條 強制執行ニ付キ利害關係ヲ有スル者ハ執行ニ立會フコトヲ得

前項ノ規定ハ執行ヲ妨クル者ヲ退去セシムル執達吏ノ權利ヲ妨ケス

第六百六十五條 夜間、大祭日、日曜日其他一般ノ休日及ヒ日出前日没後ニハ執行裁判所ノ許可アリタルトキニ限り執行行爲ヲ爲スコトヲ得

許可ノ命令ハ強制執行ノ際之ヲ示スヘシ

第六百六十六條 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ執達吏及ヒ強制執行ニ關係シタル者之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 調書作成ノ場所、年月日
- 二 執行行爲ノ目的及ヒ執行行爲ニ關スル重要ナル事項
- 三 關係人ノ表示

四 調書ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメタルコト

五 關係人カ任意ニ署名、捺印シタルコト

前項第四號及ヒ第五號ノ手續ヲ爲スコト能ハサリシトキハ其事由ヲ調書ニ記載スヘシ

第六百六十七條 執行行爲ニ關スル催告又ハ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載スヘシ

口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲スコト能ハサルトキハ第五百五十九條、第六百六十條、第六百六十三條乃至第六百六十七條ノ規定ニ從ヒテ調書ノ謄本ヲ送達シ其旨ヲ調書ニ記載スヘシ

執行行爲地ニ於テ前項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ郵便ニ依リテ送達ヲ爲シ其旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第六百六十八條 催告又ハ通知ヲ受クヘキ債務者ノ居所カ知レサルトキ又ハ

外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキハ催告又ハ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第六百六十九條 強制執行ノ方法及ヒ執達吏ノ遵守スヘキ執行手續ニ關スル異議ニ付テハ執行裁判所裁判ヲ爲ス執行費用ニ關スル執達吏ノ計算ニ付キ異議アルトキ又ハ執達吏カ強制執行ノ請求ニ應セス若クハ執行行爲ヲ爲ササル場合ニ於テ申立アルトキ亦同シ

第六百四十八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百七十條 判決ニ依リテ認メラレタル請求ニ對スル債務者ノ異議ハ第一審ノ受訴裁判所ニ訴テ以テ之ヲ主張スヘシ

異議ノ原因カ本法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ生シ且故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得サルトキニ非サレハ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

異議ノ原因カ數箇アルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

コトヲ得當事者カ此期間ヲ徒過シタルトキハ裁判ハ當然效力ヲ失フ

申立ノ事由ハ之ヲ疏明スヘシ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
第六百七十三條 第六百三十四條ノ規定ハ受訴裁判所カ異議ノ訴ニ付キ判決
ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百七十四條 第三者カ強制執行ノ目的ノ自己ニ屬スルコト又ハ其目的ニ
關シ權利ヲ有スルコトヲ理由トシテ強制執行ノ不當ナルコトヲ主張セント
スルトキハ債權者ニ對シ訴ヲ以テ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張スヘシ
債務者カ第三者ノ權利ヲ認メサル場合ニ於テ第三者カ債務者ニ對シ其權利
ヲ主張セントスルトキハ異議ノ訴ニ併合シテ其訴ヲ提起スルコトヲ得此場
合ニ於テハ債權者及ヒ債務者ヲ共同被告トス
異議ノ訴ハ執行行爲地ヲ管轄スル裁判所ノ管轄トス

前二條ノ規定ハ強制執行ノ停止及ヒ執行處分ノ取消ニ付キ之ヲ準用ス但擔

保ヲ供セシメスシテ執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ妨ケス。

第六百七十五條 強制執行ハ左ノ書面ノ提出アリタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ制限ス

一 執行スヘキ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サス若クハ其停止ヲ命スル旨ヲ記載シタル執行スルコトヲ得ヘキ裁判ノ正本

二 強制執行又ハ執行處分ノ一時停止ヲ命スル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

三 強制執行ヲ免ルル爲メ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル書面

四 執行スヘキ判決ノ言渡後請求カ消滅シ又ハ辨濟ノ猶豫アリタル旨ヲ記載シタル書面

第六百七十六條 前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消シ、第四號ノ場合ニ於テハ一時執行處分ヲ維持シ、第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ前ノ執行處分ノ取消ヲ命セサルトキニ限り一時其處分ヲ維持スヘシ

第六百七十七條 被相續人ノ債權者ハ相續ノ承認アルマテハ相續財産ニ對シテノミ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第六百七十八條 強制執行ノ開始後ニ相續カ開始シタルトキハ相續財産ニ對シテ之ヲ續行ス

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ爲ス場合ニ於テ相續人カ未確定ナルトキ、相續人アルコト分明ナラサルトキ又ハ相續人カ不在者ナルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ法人又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ選任スヘシ但既ニ選任シタル管理人アルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ特別代理人ノ選任ニ付キ之ヲ準用ス
 第六百七十九條 執行裁判所ハ相續人ノ申立ニ因リ民法第千十七條ニ定メタル期間内ニ於テハ差押債權者ハ假差押ノ執行ニ要スル處分ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ命スヘシ
 相續ノ承認アリタルトキハ民法第千十七條ノ期間内ト雖モ前項ノ規定ヲ適用セス

第六百八十條 相續人ノ債權者ハ相續ノ承認アルマテハ相續財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第六百八十一條 強制執行ノ費用ハ必要ナリシモノニ限り債務者之ヲ負擔スヘシ

強制執行ノ費用ハ強制執行ニ依リテ辨濟ヲ受クヘキ請求ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ前ノ執行行爲ニ付キ取立ツルコト能ハサリシ費用亦同シ

強制執行ノ基本タル判決カ變更、廢棄又ハ破毀セラレタルトキハ債權者ハ債務者ニ強制執行ノ費用ヲ返還スヘシ

第六百八十二條 強制執行ヲ爲スニ付キ官廳ノ援助ヲ要スルトキハ裁判所ハ之ヲ其官廳ニ求ムヘシ

第六百八十三條 豫備又ハ後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人又ハ軍屬ニ對シ兵營、軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リテ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官若クハ隊長ニ之ヲ囑託スヘシ
 囑託ニ依リテ差押ヘタル物ハ強制執行ノ請求ヲ受ケタル執達吏ニ之ヲ交付スヘシ

第六百八十四條 外國ニ於テ強制執行ヲ爲スヘキ場合ニ於テ外國官廳カ法律上ノ共助ニ依リ日本ノ裁判所ノ判決ヲ執行スヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ外國官廳ニ強制執行ヲ囑託シ、外國駐在ノ日本領

事ニ依リテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキトキハ領事ニ之ヲ囑託スヘシ

第六百八十五條 強制執行ハ左ノ債務名義ニ因リテモ之ヲ爲スコトヲ得

一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

二 執行命令

三 訴ノ提起後受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲シタル和解

四 第四百三十二條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解

五 日本ノ裁判所カ執行判決ヲ以テ執行ノ許スヘキモノナルコトヲ宣言シタル外國裁判所ノ判決

六 金錢ノ支拂又ハ代替物ノ一定ノ數量若クハ有價證券ノ一定ノ員數ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ從ヒテ作りタル證書

第六百八十六條 第六百二十九條乃至第六百八十四條ノ規定ハ前條ノ債務名

義ニ之ヲ準用ス但後三條ノ規定ニ因リテ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

第六百八十七條 執行命令ニハ之ニ表示セザリシ者ノ爲メ又ハ之ニ表示セザリシ者ニ對シ強制執行ヲ爲スヘキ場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

第六百七十條ノ規定ニ依ル訴ハ執行命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第六百四十七條、第六百七十條及ヒ第六百七十一條ノ規定ニ依ル訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄トス但訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ管轄地方裁判所ニ之ヲ提起スヘシ

第六百八十八條 公證人ノ作りタル證書ノ執行正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行正本ノ付與ニ關スル第六百四十八條及ヒ第六百四十九條ノ裁判ハ公證

人ノ役場所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄トス

第六百七十條第二項ノ規定ハ請求ニ關スル異議ノ訴ニ付キ之ヲ適用セス

第六百四十七條、第六百七十條及ヒ第六百七十一條ノ規定ニ依ル訴ハ債務者ノ日本ニ於ケル普通裁判籍所在地ノ裁判所、此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒテ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキ裁判所ノ管轄トス

第六百八十九條 本編ノ規定ニ依リテ裁判所ニ屬スル執行行為ニ關スル處分又ハ共力ハ執行裁判所ノ管轄トス

本編ノ規定ニ依リ別段ニ裁判所ヲ指定セサル場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所トス
執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百九十條 本編ノ規定ニ依リ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六百九十一條 本編ニ規定シタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章 金錢ノ債權ニ關スル強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第六百九十二條 動産ニ對スル強制執行ハ差押ニ依リテ之ヲ爲ス

差押ハ執行正本ニ掲ケタル請求ノ辨濟ヲ爲シ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押ハ差押フヘキ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償ヒ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六百九十三條 差押フヘキ物ヲ占有セサル第三者ハ其上ニ優先權ヲ有スルトキト雖モ差押ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ優先權者カ民法其他ノ法令ニ從ヒ賣得金ニ付キ差押債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クル權利ヲ妨ケス

第六百九十四條 差押債權者カ優先權ヲ認メサルトキハ第三者ハ第六百七十四條第三項ニ定メタル裁判所ニ訴テ以テ之ヲ主張スルコトヲ得債務者カ第三者ノ權利ヲ認メサル場合ニ於テ其權利ヲ主張セントスルトキハ債務者及ヒ債權者ヲ共同被告トシテ訴ヲ提起スルコトヲ得

第三者カ優先權ヲ有スルコトヲ疏明スルトキハ裁判所ハ申立ニ因リテ差押物ノ賣得金ノ供託ヲ命スヘシ

第六百七十二條及ヒ第六百七十三條ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第六百九十五條 債務者カ所持スル動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

差押ヘタル物ハ金銀、金銀ノ製品其他高價品ヲ除ク外債務者ヲシテ之ヲ保管セシム但其保管カ債權ノ辨濟ニ危險ヲ及ホス虞アルトキハ此限ニ在ラス

債務者ヲシテ物ヲ保管セシメタル場合ニ於テハ差押ハ封印其他ノ方法ヲ以

テ之ヲ明確ナラシムルトキニ限り其效力ヲ有ス

執達吏ハ債務者ニ差押ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘシ

第六百九十六條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ所持スル債務者ノ物ヲ差押フヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十七條 差押物ノ保管ニ付キ費用ヲ要スルトキハ執達吏ハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシム數人ノ關係債權者アルトキハ各債權者ノ請求金額ニ準シテ之ヲ分納セシムヘシ

執達吏ハ差押物ノ保管ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第六百九十八條 成熟期前一个月内ニ在ル果實ハ土地ヨリ分離セサルトキト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得

第六百七十四條ノ規定ハ土地ニ付キ差押債權者ニ先チテ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スル債權者カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十九條 蠶ハ其多分カ繭ヲ製造スル爲メ揚蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第七百條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然果實ニ及フ

第七百一條 左ニ掲ケタル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル衣服、寢具、家具及ヒ廚具
- 二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料、薪炭及ヒ燈火料、現品ノ貯存ナキ場合ニ於テ他ニ之ヲ取得スル方法ナキトキハ十五日間ヲ支フルニ必要ナル金銭
- 三 技術者、技藝者及ヒ職工其他ノ勞役者ニ對シテハ其營業ニ必要ナル物
- 四 農業者ニ對シテハ其農業ニ必要ナル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫時期マテ農業ヲ繼續スルニ必要ナル農産物

五 漁業者及ヒ獵業者ニ對シテハ其營業ニ必要ナル器具

六 文武ノ官吏、神職、宗教ノ職ニ在ル者、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人、醫師及ヒ産婆ニ對シテハ其業務ヲ行フニ必要ナル物及ヒ身分相當ノ衣服

七 文武ノ官吏、神職、宗教ノ職ニ在ル者及ヒ公立私立ノ教育場ノ教師ニ對シテハ差押ノ日ヨリ後ニ來ルヘキ俸給又ハ恩給ノ支拂日マテノ日數ニ應シテ算出シタル第七百三十三條ノ規定ニ依リ差押フヘカラサル部分ニ該當スル金銭

八 藥劑師ニ對シテハ調藥ニ必要ナル器具及ヒ藥品

九 勳章及ヒ名譽ノ證標

十 實印其他職業ニ必要ナル印

十一 神體、佛像、位牌、墓標、墓碑其他禮拜ノ用ニ供スル物

十二 系譜

二四二

十三 債務者及ヒ其家族ノ信書、其營業用ノ帳簿及ヒ家事用ノ記録

十四 債務者及ヒ其家族ノ未タ公ニセサル發明物及ヒ著述ノ稿本

十五 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用スル書籍

十六 債務者及ヒ其家族カ身體ノ補足ニ供スル物

前項第三號乃至第九號ニ掲ケタル物ヲ除ク外債務者ノ同意アルトキハ差押フルコトヲ得

第七百二條 差押ヘタル物ハ執達吏之ヲ競賣ス

第七百三條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ評價セシメタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七百四條 差押ヘタル金錢ハ之ヲ債權者ニ交付スヘシ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ債務者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ルルコトヲ得ル場合ニハ之ヲ適用セス

第七百五條 差押ヘタル金錢ニ付キ第三者カ債權者ニ交付スルコトヲ妨クル權利ヲ有スルコトヲ書面ニ依リテ説明シタルトキハ差押金錢ヲ供託スヘシ
此場合ニ於テ第三者カ差押アリタル日ヨリ十日内ニ第六百七十四條第三項ニ定メタル裁判所ノ執行停止命令ヲ提出セサルトキハ強制執行ヲ續行ス

第七百六條 差押ノ日ト競賣期日トノ間ニハ七日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者及ヒ債務者ノ同意アルトキ又ハ競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七百七條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ所在地タル市、町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者ノ同意アルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
現在地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキ亦同シ

競賣ノ場所及ヒ年月日時及ヒ競賣ニ付スヘキ物ハ豫メ之ヲ公告スヘシ

第七百八條 競賣ハ各競賣物ニ付キ競買申込ノ催告ヲ爲スニ因リテ始マリ最

高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終結ス

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲スヘシ

競買申込ハ之ニ超過スル他ノ競買申込アリタルトキ又ハ執達吏カ競落ノ告

知ヲ爲サスシテ競賣ヲ終結シタルトキハ當然其效力ヲ失フ

競落物ハ代金ト引換ニ非サレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第七百九條 最高價競買人カ競賣條件ニ定メタル期日又ハ其定ナキトキハ競

賣期日ノ終結前ニ代金ヲ支拂ヒ競落物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ

競賣ニ付ス此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得

ス且後ノ競落代金カ前ノ競落代金ヨリ寡キトキハ其不足額ヲ負擔ス之ヨリ

多キトキト雖モ其超過額ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百十條 競落人カ債權者ナルトキハ競落代金ノ中ヨリ強制執行ノ費用ヲ

控除シ其債權ノ辨濟ニ充當スヘキ金額ニ相當スルモノハ支拂ヲ爲スコトヲ

要セス

債務者ハ競落人タル債權者カ支拂ヲ爲スコトヲ要セサル限度ニ於テ辨濟ヲ

爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ債務者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ルルコトヲ得

ル場合ニハ之ヲ適用セス

第七百十一條 競賣ハ賣得金ヲ以テ差押債權者ノ債權ノ辨濟ニ充テ且強制執

行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ之ヲ止ム

第七百十二條 執達吏カ賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ハ其領收ノ限度ニ

於テ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ債務者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ルルコトヲ得

ル場合ニハ之ヲ適用セス

第七百十三條 金銀又ハ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得ス但競賣期日ニ於テ相當ナル競買申込ナキトキハ地金銀ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第七百十四條 土地ヨリ分離セサル前ニ差押ヘタル果實ハ其成熟ノ後ニ非サレハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得ス

執達吏ハ競賣ヲ爲ス爲メ果實ノ收穫ヲ爲サシムルコトヲ得
差押ヘタル蠶ハ全ク繭ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得ス

第七百十五條 執行裁判所ハ差押債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リテ第七百二條、第七百三條、第七百六條乃至第七百十條、第七百十三條及ヒ前條ノ規定ニ拘ハラヌ差押物ノ賣却ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第七百十六條 既ニ差押ヘタル物ニ對シ更ニ差押ヲ爲スヘキトキハ執達吏ハ請求債權者ノ爲メニ差押ヲ爲ス旨ノ調書ヲ作ルヘシ

最初差押ヲ爲シタル執達吏ニ非サル執達吏カ前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ノ謄本ヲ作り執行ニ關スル書類ニ添附シテ最初差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付スヘシ

執達吏ハ更ニ差押ヲ爲シタルコトヲ差押債權者及ヒ債務者ニ通知スヘシ

第七百十七條 前條第二項ノ規定ニ依リ調書ノ謄本及ヒ執行ニ關スル書類ノ交付ヲ受ケタル執達吏ハ後ノ差押ヲ請求シタル債權者ノ爲メニモ差押ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リテ執行裁判所カ別段ノ命令ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第七百十八條 差押加入ハ執達吏カ競賣代金ヲ領收シタル後ハ之ヲ爲スコト

ヲ得ス

第七百十九條 差押へタル物ハ總差押債權者ノ全員ノ爲メニ之ヲ競賣ス

第七百二十條 賣得金カ差押債權者ノ債權ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其金錢ヲ供託スヘシ

執達吏カ前二項ノ規定ニ依リテ供託ヲ爲シタルトキハ其事情届書ヲ所屬區裁判所ニ差出スヘシ

事情届書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附スヘシ

第七百二十一條 有價證券ニ對スル強制執行ニ付テハ後二條ノ規定ニ從フ外本節ノ規定ヲ準用ス

第七百二十二條 差押へタル有價證券カ取引所ノ相場アルモノナルトキハ執達吏ハ其賣却ヲ爲ス日ノ相場ヲ以テ適宜之ヲ賣却スルコトヲ得

第七百二十三條 差押へタル有價證券カ記名式ナルトキハ執行裁判所ハ執達

吏ノ申立ニ因リ其證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘシムル爲メ債務者ニ代ハリテ其意思表示及ヒ書換手續ヲ爲ス權限ヲ執達吏ニ付與スヘシ

第二節 債權其他ノ財産權ニ對スル強制執行

第七百二十四條 債權其他ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ債務者ノ日本

ニ於ケル普通裁判籍所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

前項ノ裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百二十五條 金錢ヲ目的トスル債權ヲ差押フヘキトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シテハ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁止シ債務者ニ對シテハ債權ノ處分ヲ爲スコトヲ禁止スル命令ヲ爲スヘシ

差押ハ第三債務者ニ差押命令ヲ送達シタル時ニ於テ其效力ヲ生ス

第七百二十六條 差押命令ハ債權者ノ申立ニ因リ豫メ第三債務者及ヒ債務者

ヲ審訊セシテ之ヲ發ス

二五〇

第七百二十七條 差押命令ヲ求ムル申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ニハ差押フヘキ權利及ヒ價額ヲ記載シ且執行正本ヲ添附スヘシ
第七百二十八條 差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ且其送達ヲ爲シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第七百二十九條 抵當權ノ擔保アル債權ヲ差押ヘタルトキハ裁判所ハ差押命令ヲ送達シタル後抵當登記ヲ爲シタル登記所ニ其登記ヲ囑託シ且抵當不動産カ第三債務者ニ屬セサルトキハ其所有者ニ債權ノ差押アリタルコトヲ通知スヘシ

所有者カ前項ノ通知ヲ受ケタル後差押債權者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百三十條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ヘキ證券ニ因ル債權ノ

差押ハ執達吏證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第七百三十六條及ヒ第七百十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七百三十一條 俸給其他之ニ類スル繼續收入權ノ差押ハ債務者カ差押後ニ收入シ得ヘキ金額ニ及フ

第七百三十二條 職務上ノ收入權ノ差押ハ債務者ノ轉任、兼任又ハ増俸ニ因收入金額ニ及フ但其金額ヲ支拂フヘキ者ニ變更アル場合ハ此限ニ在ラス

第七百三十三條 左ニ掲ケタル權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

一 法定ノ扶養

二 債務者及ヒ其家族ノ生活ニ必要ナル限度ニ於テハ債務者カ他人ノ慈悲ニ因リテ受クル繼續收入

三 下士、兵卒ノ給料及ヒ恩給並ニ其遺族ノ扶助料

二五一

四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人軍屬ノ職務上ノ收入

五 文武ノ官吏、神職、宗教ノ職ニ在ル者及ヒ公立私立教育場教師ノ職務上ノ收入及ヒ恩給竝ニ其遺族ノ扶助料

六 奴婢又ハ勞力者ノ給料及ヒ賃金

前項第五號乃至第六號ノ場合ニ於テ債務者ノ收入カ一个年金五百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第七百三十四條 既ニ差押ヘタル債權ニ付キ更ニ差押命令ヲ求ムル申立アリタルトキハ裁判所ハ其申立ヲ爲シタル債權者ニ對シ差押加入ヲ命スル決定ヲ爲シ且其旨ヲ差押債權者、第三債務者及ヒ債務者ニ通知スヘシ

差押加入ノ決定ヲ受ケタル債權者ハ差押債權者ト同一ノ權利ヲ有ス

裁判所カ差押加入ヲ命スヘキ場合ニ於テ差押命令ヲ發シタルトキハ差押加

入ノ決定ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百三十五條 差押命令ノ送達ヲ受ケタル第三債務者カ同一ノ債務ニ付キ更ニ差押命令ノ送達ヲ受ケタルトキハ第二又ハ其後ノ差押命令ヲ發シタル裁判所ニ既ニ差押命令ノ送達アリタルコトヲ届出ツヘシ其届出ニハ最初差押命令ヲ送達シタル裁判所ヲ表示スヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル裁判所ハ其發シタル差押命令ニ關スル記録ヲ最初差押命令ヲ送達シタル裁判所ニ送付シ且其旨ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知スヘ

第七百三十六條 債權者ハ差押ヘタル債權ノ取立ヲ爲シ又ハ支拂ニ代ヘ券面額ヲ以テ其轉付ヲ受クル爲メ債權ノ取立又ハ轉付ノ命令ヲ求ムルコトヲ得前項ノ申立ヲ求ムル申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得債權ノ取立命令ヲ求ムル申立ハ差押ノ申立ト併合シテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百二十五條第二項及第七百二十八條ノ規定ハ債權ノ取立又ハ轉付ノ命令ニ之ヲ準用ス

第七百三十七條 債權ノ取立命令又ハ轉付命令ハ債權ノ行使ニ必要ナル債務者ノ意思表示ニ代ハル效力ヲ有ス

債務者ハ債權ニ關シ存スル證書ヲ前項ノ命令ヲ得タル債權者ニ交付スル義務ヲ有ス若シ債務者カ其交付ヲ拒ムトキハ債權者ハ命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ之ヲ收受スルコトヲ得

第七百三十八條 動産質權ノ擔保アル債權ノ取立命令又ハ轉付命令ヲ得タル債權者ハ債務者ニ對シ相當ノ擔保ヲ供シテ質物ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ債務者カ質物ノ交付ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

第七百三十九條 債權ノ取立命令又ハ轉付命令ノ趣旨ニ從ヒ善意ニ辨濟ヲ爲シタル第三債務者ハ命令カ不當ナリシ爲メ取消サレタルトキト雖モ債務者

ニ對シ其義務ヲ履行シタルモノト看做ス

第七百四十條 債權ノ轉付命令ハ差押カ競合スル場合ニハ之ヲ發スルコトヲ得ス

債權ノ轉付命令ハ第三債務者ニ之ヲ送達スルニ因リ其債權ノ存スル限度ニ於テ債務者ノ債務ヲ消滅セシムル效力ヲ生ス

第七百四十一條 債權ノ取立命令ハ其全額ニ及フ

第七百四十二條 第二百六十五條第二項ノ規定ニ從ヒ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シテ強制執行ヲ免ルルコトヲ債務者ニ許シタル場合ニ於テハ差押ヘタル金錢ノ債權ニ付キ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ發シタル債權ノ取立命令ハ第三債務者ヲシテ債務金額ヲ供託セシムル效力ノミヲ生ス

第七百四十三條 差押債權ノ取立ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ要ス

執達吏カ債權ノ取立ヲ爲シタルトキハ第三債務者ハ之ニ因リテ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

差押加入アリタル場合ニ於テ第三債務者カ取立命令ニ依ル請求ヲ受ケタルトキハ差押加入ノ通知又ハ再度差押命令ノ送達アリタル旨ヲ執達吏ニ告知シ其取立ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ執達吏カ取立テタル金錢ハ之ヲ供託シ最初差押命令ヲ送達シタル裁判所ニ其事情ヲ届出ツヘシ

第七百四十四條 差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令送達ノ日ヨリ七日ノ期間内ニ左ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

- 一 債權ヲ認ムルヤ否及ヒ之ヲ認ムルトキハ其趣旨竝ニ支拂ヲ爲スヤ否
- 二 債權ニ付キ他ノ請求アリシヤ否及ヒ他ノ請求アリタルトキハ其種類
- 三 債權ニ付キ他ノ債權者ノ差押アリシヤ否

前項ノ陳述ヲ爲サシムル催告ハ差押命令ノ送達ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第三債務者ハ差押命令ヲ送達シタル執達吏ニ其陳述ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ執達吏ハ其陳述ニ付キ調書ヲ作り第三債務者ヲシテ之ニ署名、捺印セシムヘシ

第七百四十五條 第三債務者カ前條ノ陳述ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正若クハ不完全ナル陳述ヲ爲シタルトキハ差押債權者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百四十六條 債權者カ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起シタルトキハ債務者ニ其訴訟ヲ告知スルコトヲ要ス但債務者ニ對シ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ公示送達ヲ爲スヘキトキハ此限ニ在ラス

第七百四十七條 取立命令ヲ得タル債權者カ債權ノ行使ヲ怠リタルトキハ債務者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百四十八條 債權者ハ取立命令ニ因リテ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但其拋棄ハ請求ニ影響ヲ及ホスコトナシ
拋棄ハ書面ヲ債務者ニ送達シテ之ヲ爲ス此書面ハ第三債務者ニモ之ヲ送達スヘシ

第七百四十九條 差押ヘタル債權カ條件附若クハ期限附ナルトキ又ハ其取立カ反對給付ヲ要スル爲メ若クハ其他ノ事由ニ因リテ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ其取立ニ代ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得
裁判所ハ他ノ換價方法ヲ命スル決定ヲ爲ス前ニ相手方ヲ審訊スヘシ但相手方ニ對シ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ公示送達ヲ爲スヘキトキハ此限ニ在ラス

第七百五十條 物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ニ付テハ後三條ニ規定シタルモノノ外前二十四條ノ規定ヲ準用ス

第七百五十一條 動産ノ請求ノ差押ニ付テハ請求ノ目的物ヲ執行ノ請求ヲ受ケタル執達吏ニ引渡スヘキコトヲ命スヘシ
執達吏ニ引渡シタル物ノ換價ニ付テハ動産ニ對スル強制執行ノ規定ヲ準用ス

第七百五十二條 不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ請求ノ目的タル不動産所在地ノ區裁判所カ選任シタル保管人ニ不動産ヲ引渡スヘキコトヲ命スヘシ
保管人ニ引渡シタル不動産ノ換價及ヒ賣得金ノ配當ニ付テハ不動産ニ對スル強制執行ノ規定ヲ準用ス

第七百五十三條 前二條ニ掲ケタル請求ニ付テハ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス

第七百五十四條 數人ノ債權者カ金錢ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ第三債務者

ハ其支拂フヘキ金額ヲ供託スルコトヲ得但取立命令ヲ得タル債權者ノ請求
アルトキハ之ヲ供託スヘシ

第三債務者カ前項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ最初差押命令ヲ發シ
タル裁判所ニ其事情ヲ届出ツヘシ

第七百二十條ノ規定ハ數人ノ差押債權者ノ爲メ執達吏カ第七百三十條ニ掲
ケタル債權ノ取立ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百五十五條 數人ノ債權者カ動産ノ請求ノ差押ヲ爲シタルトキハ第二債
務者ハ債權者ヨリ執行ノ請求ヲ受ケタル執達吏ニ其請求ノ目的物ヲ引渡ス
コトヲ得但取立命令ヲ得タル債權者ノ請求アルトキハ其引渡ヲ爲スヘシ
債權者ヨリ執行ノ請求ヲ受ケタル執達吏ナキトキハ物ノ引渡ヲ爲スヘキ地
ノ管轄區裁判所ハ第三債務者ノ中立ニ因リテ目的物ノ引渡ヲ受クヘキ執達
吏ヲ定ムヘシ

第三債務者カ第一項ノ規定ニ依リ目的物ノ引渡ヲ爲シタルトキハ最初差押
命令ヲ送達シタル裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第七百五十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ請求ノ目的物ノ引渡ヲ受ケタル執
達吏カ其物ヲ賣却シタルトキハ賣得金ヲ供託シ且第三債務者カ引渡届ヲ爲
シタル裁判所ニ其事情ヲ届出ツヘシ

第七百五十七條 第三債務者カ第七百五十二條第一項ニ規定シタル命令ノ送
達ヲ受ケタルトキハ裁判所ノ選任シタル保管人ニ不動産ヲ引渡スコトヲ得
但取立命令ヲ得タル債權者ノ請求アルトキハ之ヲ引渡スヘシ

第七百五十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七百五十八條 第三債務者カ第七百三十五條第一項、第七百五十四條第二
項又ハ第七百五十五條第三項ノ規定ニ違背シタルトキハ差押債權者ニ對シ
之ニ因リ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百五十九條 第三債務者カ第七百五十四條第一項、第七百五十五條第一項又ハ第七百五十七條第一項ニ規定シタル義務ヲ履行セサルトキハ取立命令ヲ得タル債權者ハ訴テ以テ其履行ヲ求ムルコトヲ得

差押債權者及ヒ假差押債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ參加スルコトヲ得
第三債務者ハ參加セサル債權者ヲシテ參加セシムル爲メ最初ノ口頭辯論期日ノ終ニ至ルマテ其呼出ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ債權者ヲ呼出スヘシ

裁判ハ呼出ヲ受ケテ參加セカリシ債權者ニ對シテモ其效力ヲ有ス

第七百六十條 取立命令ヲ得タル債權者カ其權利ノ行使ヲ怠リタルトキハ他ノ差押債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得
前項ノ催告カ其效ナカリシトキハ他ノ差押債權者ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ債權ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得

第七百六十一條 本節ノ規定ハ金錢ノ支拂若クハ物ノ引渡又ハ其給付ヲ目的トスル債權又ハ不動産ノ所有權ニ非サル財産權ニ對スル強制執行ニ之ヲ準用ス

第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ債權ノ處分ヲ禁止スル命令ヲ送達シタル時ヲ以テ差押ノ效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ差押ノ目的タル權利ノ讓渡其他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三節 配當手續

第七百六十二條 配當手續ハ不動産ニ非サル財産ニ對スル強制執行ニ付キ金錢ノ供託及ヒ事情届アリタルトキ之ヲ爲ス

第七百六十三條 裁判所カ事情届ヲ受ケタルトキハ七日ノ期間内ニ元本、利息、費用其他附帶ノ請求ノ計算書ヲ差出スヘキコトヲ配當ニ與カル債權者

ニ催告スヘシ

二六四

第七百六十四條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ルヘシ
計算書差出ノ期間ヲ遵守セサリシ債權者ノ債權額ハ差押申立書、事情屆其
他ノ證據書類ニ依リテ之ヲ計算ス債權者ハ後ニ其債權額ヲ補充スルコトヲ
得ス

總債權者ノ利益ノ爲メニ要シタル執行手續ノ費用ハ配當スヘキ金額中ヨリ
之ヲ控除シ其殘額ヲ配當表ニ掲クヘシ

第七百六十五條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述ヲ聽キ配當ヲ爲ス爲メ期日ヲ
定メ債權者及ヒ債務者ヲ呼出スヘシ但外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ
公示送達ヲ爲スヘキトキハ債務者ヲ呼出スコトヲ要セス

配當表ハ債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ期日ノ三日前ニ裁判所書記
課ニ之ヲ備置クヘシ

第七百六十六條 期日ニ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒ配當ヲ爲スヘ
シ

異議ノ申立アルトキハ各債權者ハ直チニ陳述ヲ爲スヘシ
關係人カ異議ヲ正當ト認メ又ハ他ノ方法ニ依リテ一致シタルトキハ配當表
ヲ更正シテ配當ヲ爲シ異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ノミ配當ヲ爲
スヘシ

配當ニ付テハ裁判所書記調書ヲ作ルヘシ

第七百六十七條 期日ニ出頭セス又ハ出頭シテ異議ヲ述ヘサル債權者ハ配當
表ニ依ル配當ニ同意シタルモノト看做ス

他ノ債權者ノ申立テタル異議ニ付キ利害關係ヲ有スル債權者カ期日ニ出頭
セサルトキハ其異議ヲ不當ナリトスルモノト看做ス

第七百六十八條 期日ニ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ

二六五

期日ヨリ七日ノ期間内ニ異議ニ關係アル債權者ニ對シテ訴ヲ提起シタルコトヲ裁判所ニ證スヘシ

債權者カ前項ノ期間ヲ徒過シタルトキハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ヲ爲スヘシ但配當表ニ從ヒ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先辨濟ヲ受クル權利ヲ主張スル債權者ノ權利ヲ妨ケス

第七百六十九條 異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ハ配當裁判所ノ管轄トス若シ其訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄トス

數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ其一ノ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ地方裁判所ハ其他ノ訴ヲモ併セテ管轄ス但各債權者カ一切ノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受クヘキコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百七十條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ爭アル部分ノ金ヲ如何ナル債

權者ニ幾許ノ割合ヲ以テ配當スヘキモノナルヤヲ定ムヘシ但其判決ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ適當ナラストスルトキハ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命スヘシ

第七百七十一條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ヲ懈怠シタルトキハ異議ヲ取消シタルモノト看做ス闕席判決ヲ爲スヘシ

第七百七十二條 前二條ノ判決ノ確定後配當裁判所ハ其判決ニ基キテ支拂ヲ爲シ又ハ他ノ配當手續ヲ命スヘシ

第七百七十三條 債權者ハ其債權額ノ割合ニ準シ平等ニ配當ヲ受ク前項ノ規定ハ民法其他ノ法令ニ因リテ優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ妨ケス

第七百七十四條 同一債權者ノ數箇ノ請求ヲ辨濟スヘキ場合ニ於テ其全部ノ辨濟ヲ爲スコト能ハサルトキハ民法ノ規定ニ從ヒ辨濟ノ充當ヲ爲スヘシ

第七百七十五條 配當裁判所ハ左ノ規定ニ依リテ配當ヲ爲スヘシ

一 債權者カ其債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クヘキトキハ之ニ配當金額支拂證券ヲ交付シ且其所持スル執行正本ヲ差出サシメテ之ヲ債務者ニ交付スヘシ

二 債權者カ債權ノ一部ノ辨濟ヲ受クヘキトキハ執行正本ヲ差出サシメ其裏面ニ支拂配當金額ヲ記載シ配當金額ノ支拂證券ト共ニ之ヲ其債權者ニ交付シ且配當金額ヲ記載シタル受取證書ヲ差出サシメテ之ヲ債務者ニ交付スヘシ

期日ニ出頭セサル債權者ノ受取ルヘキ配當金額、第六百九十四條ノ規定ニ依リ訴ヲ提起シタル債權者、假差押債權者、異議アル債權者若クハ辨濟期ニ至ラサル優先權者ノ債權額又ハ債務者ニ交付スヘキ剩餘金額ハ之ヲ供託スヘシ

前二項ノ手續ヲ爲シタルコトハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニスヘシ

第四節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第七百七十六條 不動産ニ對スル強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス

債權者ハ前項ニ掲ケタル二箇ノ方法ヲ併セテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第七百七十七條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第三十一條第四號ノ場合ニ於テ管轄執行裁判所ニ指定セラレタル裁判所ハ他ノ關係裁判所ニ其旨ヲ通知スヘシ

第七百七十八條 送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

送達ヲ受クヘキ者カ執行裁判所ノ管轄區域内ニ住居セサルトキハ書類ヲ郵

便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ者カ執行裁判所ノ管轄區域内ニ住居スル訴訟代理人又ハ送達受取人ヲ選任シ其届出ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス
公示送達ニ關スル規定ハ強制競賣若クハ強制管理ノ開始又ハ差押加入ヲ命スル決定ヲ債務者ニ送達スル爲メニ之ヲ適用ス

第七百七十九條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ左ニ掲ケタル者ヲ以テ利害關係人トス

- 一 差押債權者及ヒ債務者
- 二 強制競賣又ハ強制管理ノ開始ヲ命スル決定ノ登記前ニ登記ヲ爲シタル不動産上ノ權利者
- 三 不動産上ノ權利ヲ有スルコト又ハ強制執行ニ對シテ異議ヲ述フル權利ヲ有スルコトヲ届出テ其權利ヲ疏明シタル者

登記シタル不動産賃借權ハ之ヲ不動産上ノ權利ト看做ス

第二款 強制競賣

第七百八十條 強制競賣ノ開始ハ申立ニ因リテ執行裁判所之ヲ命ス

第七百八十一條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 債權者及ヒ債務者ノ表示
- 二 不動産ノ表示
- 三 競賣ノ原因タル債權及ヒ執行力アル債務名義
- 四 裁判所ノ表示

第七百八十二條 申立ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

- 一 執行正本
- 二 既登記ノ不動産ニ付テハ所有者及ヒ土地所在ノ國、郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、地目、段別若クハ坪數又ハ建物所在ノ國、郡、市、區、

町村、字、建物ノ番號、種類、構造、建坪ヲ記載シタル登記簿ノ抄本

三 未登記ノ不動産ニ付テハ債務者ノ所有ニ屬スルコト其他前號ニ掲ケ

タル事項ヲ證スルニ足ルヘキ書面

前項第二號ノ登記簿ノ抄本ニ付テハ登記簿ヲ主管スル區裁判所カ執行裁判所ナルトキハ其登記番號ヲ摘示スルヲ以テ足ル

債權者ハ第一項第三號ノ事項ニ付キ公簿ヲ主管スル官廳又ハ公署ニ其證明ヲ求ムルコトヲ得

債權者ハ第一項第三號ノ事項ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ得ルコト能ハサルトキハ執行裁判所ニ其取調ヲ求ムルコトヲ得執行裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシムヘシ

第一項第二號及ヒ第三號ノ事項ニ付テハ不動産カ強制管理中ナルトキハ強制管理ノ事件番號ヲ摘示スルヲ以テ足ル

第一項第二號及ヒ第三號ノ事項ニ付テハ一人ノ債權者ノ申立ニ因リ強制競賣開始ノ決定アリタル後他ノ債權者カ申立ヲ爲ストキハ強制競賣ノ事件番號ヲ摘示スルヲ以テ足ル

第七百八十三條 強制競賣ノ開始ハ左ノ場合ニ限り之ヲ命ス

- 一 既登記ノ不動産ニ付テハ債務者カ登記簿ニ表示シタル所有者ナルトキ又ハ其所有者ノ相續人ナルトキ
- 二 未登記ノ不動産ニ付テハ債務者ノ所有ニ屬スルコトノ證明アリタルトキ

債務者カ所有者ノ相續人ナルトキハ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ以テ相續ノ證明ヲ爲スヘシ

第七百八十四條 同一ノ債務者ニ對スル債權又ハ數箇ノ不動産ヲ擔保トスル一箇ノ債權ヲ實行スル爲メ強制競賣ヲ爲ストキハ數箇ノ不動産ニ對シ一箇

ノ手續ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百八十五條 裁判所カ強制競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其

決定ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ

管轄登記所ハ前項ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲シタル後登記簿及ヒ附屬書類ノ

謄本ヲ裁判所ニ送付スヘシ

第七百八十六條 強制競賣開始ノ決定ハ債權者ノ爲メニ不動産ヲ差押フル效

力ヲ有ス

差押ノ效力ハ不動産ノ從物ニ及フ

第七百八十七條 差押ハ強制競賣開始決定ノ登記ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第七百八十八條 差押後ニ於ケル不動産上ノ權利ノ設定、移轉及ヒ變更ハ之

ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百八十九條 債務者ハ差押後ニ於テモ不動産ノ管理及ヒ收益ヲ爲スコト

ヲ得

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リテ不動産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命

スルコトヲ得但不動産ヲ占有スル第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第七百九十條 裁判所ハ一人ノ債權者ノ申立ニ因リテ強制競賣開始ノ決定ヲ

爲シタル後ハ他ノ債權者ノ強制競賣ノ申立ニ付キ差押加入ヲ命スル決定ヲ

爲スヘシ

差押加入ノ決定ヲ受ケタル債權者ハ強制競賣開始ノ決定ヲ受ケ且其決定ノ

登記アリタルト同一ノ權利ヲ有ス

裁判所カ差押加入ノ決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ強制競賣開始ノ決定ヲ爲シ

タルトキハ差押加入ノ決定ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百九十一條 強制競賣ノ開始又ハ差押加入ヲ命スル決定ハ申立人及ヒ債

務者ニ之ヲ送達スヘシ

差押加入ヲ命スル決定ハ利害關係人ニ之ヲ通知スヘシ

第七百九十二條 強制競賣ノ障碍ト爲ルヘキ事項ノ存在スルコトカ登記簿ノ謄本ニ依リテ明瞭ナルトキハ裁判所ハ手續ヲ廢止シ又ハ期間ヲ定メテ障碍ノ消滅シタルコトヲ疏明スヘキ旨ヲ差押債權者ニ命シ手續ヲ一時停止スヘシ

差押債權者カ前項ノ期間内ニ疏明ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ手續ヲ續行シ疏明ヲ爲ササルトキハ手續ヲ廢止スヘシ

第七百九十三條 買戻權者、先買權者又ハ賣買豫約者カ適當ノ時期ニ其權利ヲ實行スルコトヲ届出テタルトキハ裁判所ハ擔保ヲ供セシメテ手續ヲ廢止スヘシ

第七百九十四條 差押債權者ノ全員カ強制競賣ノ申立ヲ取下ケタルトキハ裁判所ハ手續ヲ廢止スヘシ

第七百九十五條 差押債權者ノ全員カ停止ノ申立ヲ爲シ又ハ利害關係人カ差押債權者ノ全員ノ同意ヲ得テ其申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ手續ヲ一時停止スヘシ

差押債權者ハ一回ニ限り停止ノ申立ヲ爲シ又ハ其申立ニ付キ同意ヲ爲スコトヲ得

第七百九十六條 手續ヲ一時停止シタルトキハ差押債權者ノ申立アルニ非サレハ其手續ヲ續行セス但別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

申立ニ因リテ手續ヲ停止シタルトキハ其申立ヲ爲シ又ハ其申立ニ付キ同意ヲ爲シタル差押債權者ノ全員ノ申立アルニ非サレハ其手續ヲ續行セス

差押債權者カ三個月内ニ續行ノ申立ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ手續ヲ廢止スヘシ

前項ノ期間ハ受訴裁判所カ停止ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其決定カ效

力ヲ失ヒタル時ヨリ之ヲ起算シ其他ノ場合ニ於テハ手續ヲ停止シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第七百九十七條 手續ノ廢止又ハ一時停止ヲ命スル決定ハ差押債權者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ第三者カ申立ヲ爲シタルトキハ第三者ニモ之ヲ送達スヘシ

前項ノ決定ハ利害關係人ニ之ヲ通知スヘシ

第七百九十八條 競賣ノ終結後手續ノ廢止又ハ一時停止ノ原因アルトキハ裁判所ハ競落ヲ許ササル決定ヲ爲スヘシ

第七百九十九條 手續ヲ廢止スル決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ強制競賣開始決定ノ登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

第八百條 裁判所ハ登記簿ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル後競賣期日ヲ定ムル決定ヲ爲スヘシ

第八百一條 競賣期日ヲ定ムル決定ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 不動産ノ表示
- 二 強制競賣ヲ爲スコト
- 三 競賣ノ期日及ヒ場所
- 四 執行記録ヲ閱覽スルコトヲ得ヘキ場所
- 五 強制競賣開始決定ノ登記ヲ爲シタル時ニ於ケル登記簿ノ謄本ニ表現セサル不動産上ノ權利ハ競買申込ノ催告マテニ之ヲ届出テ且其疏明ヲ爲スヘク之ニ違ヒタルトキハ競賣條件ノ確定ニ付キ其權利ヲ斟酌セス且競落代金ノ配當ニ付キ其權利ノ順位ヲ差押債權者ノ債權及ヒ他ノ不動産上ノ權利ノ後ニ定ムヘキコト
- 六 強制競賣ニ對シテ異議ヲ述フル權利ヲ有スル者ハ競落決定マテニ手續ノ廢止又ハ一時停止ヲ命スル決定ヲ提出スヘク之ニ違ヒタルトキ

ハ不動産ニ付キ權利ヲ喪失シ競落代金ノミニ付キ權利ヲ有スヘキコト

七

債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル買戻權者、先買權者又ハ賣買豫約者ハ競落決定マテニ其權利ヲ實行スルコトヲ届出ツヘク之ニ違ヒタルトキハ不動産及ヒ競落代金ニ付キ權利ヲ喪失スヘキコト

八

利害關係人ハ競賣期日ニ出頭スヘキコト

競賣期日ト公告ノ日トノ間ニハ少クトモ十四日ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

競賣ハ裁判所内又ハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲ス

第八百二條

競賣期日ヲ定ムル決定ハ債權者、債務者、租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳及ヒ公署其他登記簿ノ謄本ニ表現シ又ハ届出ヲ爲シタル利害關係

人ニ之ヲ送達スヘシ

第八百三條

競賣期日ヲ定ムル決定ハ裁判所ノ揭示場及ヒ不動産所在ノ市、區、町村役場ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告スヘシ

裁判所ハ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ前項ノ決定ヲ掲載スルコトヲ得

第八百四條

競賣ハ差押ニ係ル物ヲ以テ其目的トス

第八百五條

差押債權者ノ債權ヨリ優先ナル債權及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟スルニ足ルヘキ金額ニ滿タサル競買申込ハ之ヲ許サス

第八百六條

數人ノ差押債權者アル場合ニ於テ其債權ノ順位カ異ナルトキハ最優先ナル債權ヲ以テ最低競買申込額ノ確定ノ標準ト爲スヘシ

差押加入ノ決定ヲ受ケタル債權者ノ債權ハ最優先ナルトキト雖モ競賣期日ノ三日前ニ其決定ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ以テ標準ト爲スコトヲ得ス但其債權ヲ以テ標準ト爲スニ因リ利益ヲ失フヘキ者カ同意ヲ爲シタルトキハ

此限ニ在ラス

第八百七條 登記簿ノ謄本ニ表現シ又ハ届出及ヒ疏明アリタル債權ニ非サレハ最低競買申込額ノ確定ニ付キ之ヲ斟酌セス

第八百八條 債權ニ附シタル期限カ競賣期日後ニ到來スヘキ場合ニ於テ其債權カ無利息ナルトキハ競賣期日後一个月ヲ經過シタル時ヨリ期限ニ至ルマテノ法定利息ヲ加フルトキハ其債權額ニ相當スヘキ金額ヲ以テ債權額ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ債權ニ附シタル期限カ不確定ナルトキハ競賣期日ニ於ケル評價額ヲ以テ債權額ト看做ス

第八百九條 前條第一項ノ規定ハ金額及ヒ期間ノ一定セル定期金債權ニ之ヲ準用ス但其總額カ法定利率ニ依リテ其定期金ニ相當スル利息ヲ生スヘキ元本額ニ超ユルトキハ其元本額ヲ以テ債權額ト看做ス

第八百十條 條件附債權ハ無條件債權ト看做ス

第八百十一條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ、金錢ナルモ其額ノ不確定ナルトキ又ハ外國ノ通貨ヲ以テ定メタルモノナルトキハ競賣期日ニ於ケル評價額ヲ以テ債權額ト看做ス

前項ノ評價額ハ登記シタル債權ノ價格ニ超ユルコトヲ得ス

第八百十二條 優先權カ利息其他ノ定期金ニ付キ存在スルトキハ競賣期日後一个月ヲ經過シタル時ニ至ルマテノ部分ヲ斟酌スヘシ

第八百十三條 先取特權カ一定ノ期間ノ債權額ニ付キ存在スルトキハ其期間ハ競賣期日後一个月ヲ經過シタル時ヲ標準トシテ之ヲ計算スヘシ

第八百十四條 競賣條件ニ依リテ存續スヘキ不動産上ノ權利カ存在セサルトキハ之ニ因リテ生スヘキ不動産ノ増價額ヲ支拂フヘシ

第八百十五條 差押債權者ノ債權ヨリ優先ナル債權カ特定ノ競賣條件ニ依リ

存續スヘキ場合ニ於テ其債權カ存在セサルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂フヘシ條件附債權ニ付キ停止條件カ成就セサルトキ若クハ解除條件カ到來シタルトキ亦同シ

第八百十六條 差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ不動産上ノ權利ハ辨濟ニ因リテ消滅セサル限りハ存續ス

差押債權者ニ對抗スルコトヲ得サル不動産上ノ權利ハ消滅ス

第八百六條及ヒ第八百七條ノ規定ハ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ不動産上ノ權利ヲ定ムルニ付キ之ヲ準用ス

第八百十七條 債權ノ擔保タル不動産上ノ權利カ特定ノ競賣條件ニ依リテ存續スルトキハ債務ハ債務者ノ交替ニ因リテ更改ス

更改ハ配當調書ニ其事項ヲ記載シタル時ヨリ其效力ヲ生ス

第八百十八條 利害關係人ハ前十四條ニ掲ケタル法定ノ競賣條件ト異ナル競

賣條件ヲ定ムヘキ旨ノ申立ヲ爲スコトヲ得但其申立ニ因リテ特ニ定ムヘキ競賣條件カ他ノ利害關係人ノ利益ニ影響ヲ及ボスヘキトキハ其同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百十九條 裁判所ハ競賣期日前ニ利害關係人ヲシテ競賣條件ニ付キ協議セシムルコトヲ得

裁判所ハ競賣條件ニ付キ協議セシムル爲メ特ニ期日ヲ定ムルコトヲ得

第八百二十條 數箇ノ不動産ノ強制競賣ヲ爲ストキハ各箇ノ不動産ヲ分離シテ競賣ニ付スヘシ

債務者ハ最初ニ競賣ニ付スヘキ不動産ヲ指定スルコトヲ得

利害關係人ノ申立アルトキハ各箇ノ不動産ヲ競賣ニ付スル前又ハ其後ニ數箇ノ不動産ヲ併セテ競賣ニ付スルコトヲ得

數箇ノ不動産ノ競買申込額カ各箇ノ不動産ノ競買申込額ヲ併合シタルモノ

ニ超ユルトキニ限り數箇ノ不動産ノ競買申込人ニ競落ヲ許スコトヲ得

第八百二十一條 差押債權者ノ債權ヨリ優先ナル同一ノ債權ノ擔保タル數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付スルトキハ各不動産ノ最低競買申込額ノ確定ニ付キ其不動産ノ價額ニ準シテ算定シタル債權ノ部分ヲ斟酌スヘシ

優先債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ不動産上ノ權利アルトキハ不動産ノ價額ヨリ其權利ノ價額ヲ控除シタル殘額ニ準シテ債權ノ部分ヲ算定スヘシ

第八百二十二條 裁判所ハ競賣期日ニ於テ事件ノ呼上ノ後利害關係人ヲ審訊シ必要ナル場合ニ於テハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ競賣條件ヲ確定スヘシ
期日ニ出頭シタル者ヲシテ執行記録ヲ閱覽セシメ特定ノ競賣條件アルトキハ特ニ之ヲ告知スヘシ

前二項ノ手續ヲ終ハリタル後競買申込ノ催告ヲ爲スヘシ

第八百二十三條 利害關係人ハ競買申込人ヲシテ擔保ヲ供セシムヘキ旨ノ申

立ヲ爲スコトヲ得此申立ハ競買申込人ノ其後ノ競買申込ニ付テモ亦效力ヲ有ス

前項ノ申立ハ競買申込ノ後直チニ之ヲ爲スヘシ

第八百二十四條 裁判所カ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シタルトキハ競買申込人ハ競買申込額ノ十分ノ一ニ相當スル金錢又ハ有價證券ヲ差出スヘシ

競買申込人カ擔保ヲ供セサルトキハ其競買申込ヲ却下スヘシ

第八百二十五條 法律ノ規定ニ從ハサル競買申込ハ之ヲ却下スヘシ

競買申込人カ書面ヲ以テ代理權又ハ競買ヲ爲スニ必要ナル認許ヲ證セサルトキハ其競買申込ヲ却下スヘシ但代理權又ハ認許ノ存在スル事實カ裁判所ニ於テ顯著ナルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十六條 競買申込ハ之ニ超過スル他ノ競買申込アリテ利害關係人カ直チニ異議ヲ述ヘサルトキハ其效力ヲ失フ裁判所カ競買申込ヲ却下シ競買

申込人若クハ利害關係人カ直チニ異議ヲ述ヘサルトキ、手續ヲ一時停止シ之ヲ廢止シ又ハ期日ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第八百二十七條 競賣ハ競買申込ノ催告後二時間ヲ經過スルニ非ツレハ之ヲ終結スルコトヲ得ス

競賣ノ終結ハ最終ノ競買申込ヲ呼上ケタル後之ヲ言渡スヘシ

第八百二十八條 最高競買申込人カ擔保トシテ差出シタル金錢又ハ有價證券ハ其義務ノ履行ヲ終ハルマテ之ヲ保管スヘシ

他ノ競買申込人カ擔保トシテ差出シタル金錢又ハ有價證券ハ競賣ノ終結後之ヲ返還スヘシ

第八百二十九條 競買申込ノ後不動産カ滅失シ又ハ著シク毀損シタルトキハ裁判所ハ其申込ノ取消ヲ許スコトヲ得

裁判所カ前項ノ規定ニ依リテ競買申込ノ取消ヲ許シタルトキハ手續ヲ一時

停止シ又ハ之ヲ廢止スルコトヲ得

第八百三十條 數箇ノ不動産ノ強制競賣ヲ爲ス場合ニ於テ或不動産ニ付キ差押債權者ノ債權及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟スルニ足ルヘキ競買申込アリタルトキハ他ノ不動産ニ付キ手續ヲ一時停止スヘシ但手續ノ停止カ差押債權者ノ利益ニ影響ヲ及ホスヘキトキハ此限ニ在ラス

第八百三十一條 競賣期日ノ始マリタル後債務者カ差押債權者ノ債權及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟スルニ足ルヘキ金額ヲ差出シタルトキハ手續ヲ一時停止スヘシ

第八百三十二條 競賣期日ニ於テ適法ノ競買申込ナキトキハ手續ヲ一時停止スヘシ

新競賣期日ニ於テ尙ホ競買申込ナキトキハ手續ヲ廢止スヘシ

第八百三十三條 手續ノ一時停止ニ關スル規定ハ競賣期日ノ變更及ヒ廢止ニ

付キ之ヲ準用ス

第八百三十四條 競賣期日ニ於ケル裁判所ノ行爲ハ手續ノ廢止若クハ一時停止又ハ競落ニ關スルモノヲ除ク外執達吏ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八百三十五條 競賣ニ付テハ裁判所書記其調書ヲ作り判事及ヒ書記之ニ署名捺印スヘシ

執達吏カ競賣ヲ爲ストキハ執達吏其調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ
調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競賣ノ期日及ヒ場所
- 二 出頭シタル利害關係人ノ表示
- 三 執行記録ヲ閱覽セシメタルコト及ヒ特定ノ競賣條件ヲ告知シタルコト
- 四 不動産上ノ權利ノ届出、其疏明及ヒ其權利ニ關スル利害關係人ノ異

議

五 競賣條件ノ確定及ヒ其確定ニ關スル利害關係人ノ申立又ハ異議

六 競買申込ヲ催告シタル時及ヒ競賣ノ終結ヲ言渡シタル時

七 一切ノ競買申込及ヒ其中込ニ關スル利害關係人ノ申立又ハ異議及ヒ之ニ對スル裁判

八 競落ニ關スル利害關係人ノ申立又ハ異議及ヒ之ニ對スル裁判

九 競落ヲ許シ又ハ之ヲ許ササル決定ヲ爲シタルトキハ其決定、其決定ヲ爲ササルトキハ特ニ定メタル競落期日

第八百三十六條 裁判所ハ競賣期日ニ於テ競賣ノ終結後又ハ特ニ定メタル競落期日ニ於テ競落ニ付キ利害關係人ヲ審訊スヘシ

第八百三十七條 競落前ニ爲シタル裁判ハ競落ニ關スル決定ニ付キ裁判所ヲ羈束セス

第八百三十八條 競落ハ最高競買申込人ニ之ヲ許スヘシ

第八百三十九條 競落ヲ許ス決定ニハ不動産、競落人、其競買申込額及ヒ競賣條件ヲ記載スヘシ

前項ノ決定ハ之ヲ言渡シ且裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告スヘシ

第八百四十條 左ノ場合ニ於テハ競落ヲ許ササル決定ヲ爲スヘシ

- 一 強制執行ヲ許スヘカラサルトキ又ハ其手續ヲ續行スヘカラサルトキ
- 二 最高競買申込人ノ能力又ハ代理權ニ欠缺アルトキ
- 三 競賣條件ノ確定ニ關スル規定ニ違背シタルトキ

四 第八百二條及ヒ第八百三條ノ規定ニ依リテ競賣期日ヲ定ムル決定ノ

送達及ヒ公告ヲ爲ササリシトキ又ハ其決定ニ第八百一條第一項ニ定メタル事項ノ記載ナカリシトキ

五 第八百一條第二項、第八百二十條、第八百二十四條又ハ第八百二十七

條ノ規定ニ違背シタルトキ

前項第二號乃至第五號ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ權利ニ影響ヲ及ボササルトキ又ハ利害關係人カ同意ヲ爲シタルトキハ競落ヲ許スコトヲ妨ケス

第八百四十一條 競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキハ手續ノ續行ヲ妨ケサル場合ニ於テハ一時停止ノ效力ヲ有シ其他ノ場合ニ於テハ廢止ノ效力ヲ有ス

第八百四十二條 競落ヲ許シ又ハ之ヲ許ササル決定ハ競賣期日又ハ特ニ定メタル期日ニ於テ之ヲ言渡スヘシ

競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス此期日ハ之ヲ言渡シ且裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告スヘシ

第八百四十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定カ抗告ニ因リテ廢棄セラレサル限りハ競落ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得ス

第八百四十四條 不動産上ノ權利ハ競賣條件ニ依リテ存續スルモノヲ除ク外
競落ニ因リテ消滅ス

第八百四十五條 債權ノ擔保ニ非サル不動産上ノ權利カ競落ニ因リテ消滅ス
ルトキハ權利者ハ權利ノ登記ノ順位ニ從ヒ其評價額ヲ請求スルコトヲ得

第八百四十六條 裁判所ハ競落後ニ於テモ利害關係人又ハ競落人ノ申立ニ因
リ不動産ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得但不動產ヲ占有スル
第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百四十七條 競落人ハ競落代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産
ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

競落代金ハ競落人ノ競買申込額ノ外第八百四十四條又ハ第八百十五條ノ規定
ニ依リテ支拂フヘキ金額ヲ包含ス

第八百四十八條 競落代金ノ支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲スヘシ但配當期日前ニ競

落代金ノ支拂アリタルトキハ裁判所ニ之ヲ保管スヘシ

競落人カ競買申込ノ擔保トシテ差出シタル金錢又ハ有價證券ハ競落代金ノ
支拂ノ爲メ差出シタルモノト看做ス

有價證券ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ニ從ヒ執達吏ヲシテ其換價ヲ爲サ
シムヘシ但擔保ヲ供シタル者ノ申立アルトキハ競落決定ノ確定マテ其換價
ヲ延期スヘシ

第八百四十九條 競落人ハ競落ニ因リ消滅スヘキ不動産上ノ權利ヲ有スル者
ノ同意ヲ得テ其者ノ配當額ニ相當スル競落代金ノ部分ノ支拂ニ代ヘ其權利
ヲ存續セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ存續セシムル不動産上ノ權利カ債權ノ擔保ナルトキハ
第八百七條ノ規定ヲ準用ス

第八百五十條 競落人カ配當權利者ナルトキハ競落代金ヨリ其配當額ヲ控除

スルコトヲ得

二九六

第八百五十一條 前二條ノ場合ニ於テ競落代金ノ仕拂ニ代ヘ存續セシムヘキ

權利又ハ競落人ノ權利ニ付キ異議アルトキハ相當ノ金額ヲ供託スヘシ

第八百五十二條 不動産ノ占有者カ正當ノ理由ナクシテ引渡ヲ拒ムトキハ裁

判所ハ競落人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八百五十三條 本款ノ規定ニ依リテ爲ス裁判ニ對シテハ手續ノ廢止、一時

停止若クハ續行又ハ競落ニ關スルモノニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第八百五十四條 競落ヲ許シ又ハ之ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ニ付テハ後

五條ニ定メタルモノヲ除ク外即時抗告ニ關スル規定ヲ適用ス

第八百五十五條 競落ヲ許ス決定ニ對シテハ利害關係人又ハ競落人ハ抗告ヲ

爲スコトヲ得

第七百七十九條第三號ニ掲ケタル者カ抗告ヲ爲スニハ抗告裁判所ニ於テ權

利ノ届出及ヒ疏明ヲ爲スヲ以テ足ル

競落ヲ許ササル決定ニ對シテハ差押債權者ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

競買申込カ其效力ヲ失ハサリシコトヲ主張スル競買申込人ハ競落ヲ許シ又

ハ之ヲ許ササル決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第八百五十六條 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對ノ意見ヲ述ヘシム

ル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ムヘシ

數箇ノ抗告ハ之ヲ併合スヘシ

第八百五十七條 抗告ハ第八百三十八條若クハ第八百四十條ノ規定ニ違背シ

タルコト又ハ競賣條件ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲ス

コトヲ得

他人ノ權利ニ關スル理由ヲ以テ抗告ヲ爲シ又ハ抗告却下ノ申立ヲ爲スコト

ヲ得ス

二九七

取消又ハ再審ノ訴ノ要件カ存在スルトキハ前二項ノ規定ニ拘ハラヌ抗告ヲ爲スコトヲ得

第八百四十條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル事項ハ職權ヲ以テ之ヲ調査スヘシ

第八百五十八條 抗告裁判所ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ原決定ヲ取消シ事件ニ付キ裁判ヲ爲スヘシ

抗告裁判所カ競落ヲ許ス決定ヲ廢棄シタル場合ニ於テ再抗告裁判所カ再抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ抗告裁判所ノ決定ヲ廢棄シ競落ヲ許ス決定ニ對スル抗告ヲ却下スヘシ

第八百五十九條 抗告裁判所カ原決定ヲ變更シ又ハ之ヲ廢棄スルトキハ利害關係人及ヒ競落ヲ許シ又ハ之ヲ許ササル競買申込人ニ其裁判ヲ送達シ抗告ヲ却下スルトキハ抗告人及ヒ其相手方ニノミ其裁判ヲ送達スヘシ

第八百六十條 裁判所ハ競落ヲ許ス決定ノ後配當期日ヲ定ムル決定ヲ爲スヘシ

配當期日ヲ定ムル決定ハ利害關係人及ヒ競落人ニ之ヲ送達シ且裁判所ノ掲示場ニ掲示シテ之ヲ公告スヘシ

第八百六十一條 裁判所ハ前條ノ決定ヲ以テ一定ノ期間内ニ請求ノ計算書ヲ差出スヘキコトヲ利害關係人ニ催告スヘシ

利害關係人カ前項ノ期間内ニ計算書ヲ差出ササルトキハ裁判所ハ執行記録ニ依リテ其請求額ヲ算定スヘシ

第八百六十二條 裁判所ハ計算書差出期間ノ滿了後配當表ヲ作り利害關係人ヲシテ閱覽セシムル爲メ配當期日ヨリ少クトモ三日前ニ書記課ニ之ヲ備置クヘシ

第八百六十三條 手續ノ費用ハ配當總額ヨリ先ツ之ヲ控除スヘシ但強制競賣

ノ申立ノ費用ハ此限ニ在ラス

第八百六十四條 第八百一一條第一項第五號ニ定メタル期間ヲ經過シタル後權利ノ届出ヲ爲シタル者ハ差押債權者及ヒ他ノ不動産上ノ權利者ノ後ニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第八百六十五條 期限ヲ附シタル債權ニ付テハ配當期日ニ期限ノ到來シタルモノト看做シテ配當額ヲ定ムヘシ

第八百六十六條 第八百八條第一項、第八百九條、第八百十二條及ヒ第八百十三條ニ掲ケタル債權ニ付テハ配當期日ヲ以テ競賣期日後一个月ヲ經過シタル時ニ代ヘ其各條ノ規定ニ準シテ配當額ヲ定ムヘシ

第八百八條第二項及ヒ第八百十一條ノ債權ニ付テハ競賣期日ニ於ケル評價額ニ準シテ配當額ヲ定ムヘシ但債權者ノ申立アルトキハ配當期日ニ於テ更ニ其評價ヲ爲スヘシ

第八百六十七條 同一ノ債權ノ擔保タル數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタルトキハ各不動産ノ競落代金ニ準シテ算定シタル債權ノ部分ヲ其不動産ニ關スル配當表ニ掲クヘシ

前項ノ債權ヨリ優先ナル債權アルトキハ競落代金ヨリ其債權額ヲ控除シタル殘額ニ準シテ債權ノ部分ヲ算定スヘシ

競落人カ競落代金ヲ支拂ハサルニ因リ各不動産ニ關スル配當表ヲ同時ニ實施スルコト能ハサルトキハ債權ノ全額ヲ各配當表ニ掲クヘシ

第八百六十八條 數箇ノ不動産ノ競買申込人ニ競落ヲ許シタル場合ニ於テ各不動産ニ付キ配當總額ヲ確定スル必要アルトキハ競落代金ヨリ手續ノ費用及ヒ最低競買申込ノ確定ニ付キ斟酌シタル債權ニシテ總不動産カ其擔保タルモノヲ辨濟スルニ足ルヘキ金額ヲ控除シ其殘額ヲ各不動産ノ價額ヲ各不動産ノ價額ニ準シ分割シタルモノヲ以テ其不動産ニ對スル分配額トス

競落ニ因リテ消滅セサル權利アルトキハ前項ノ殘額ニ其權利ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ各不動産ノ價額ニ準シテ分割シ其分割シタル額ヨリ各不動産ノ上ニ存續スヘキ權利ノ價額ヲ控除シタルモノヲ以テ其不動産ニ對スル分配額トス

各不動産ニ對スル分配額ヲ以テ其不動産ノ最低競買申込額ノ確定ニ付キ斟酌シタル債權ヲ辨濟スルニ足ラサルトキ又ハ其分配額カ其不動産ノ競買申込額ヨリ低キトキハ他ノ不動産ニ對スル分配額ヲ以テ其不足額ヲ補充スヘシ

第八百六十九條 裁判所ハ配當期日ニ於テ利害關係人ヲ審訊シ必要ナル場合ニ於テハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ配當總額及ヒ配當表ヲ確定スヘシ
配當表ニハ配當總額、債權者ノ債權、登記簿ニ表現シ又ハ配當期日マテニ届出テタル權利、權利ノ評價額、配當ノ順位、配當ノ割合及ヒ存續スヘキ不動

產上ノ權利ヲ記載スヘシ

第八百七十條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第七百六十六條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス但停止條件附債權ニ對スル配當額ハ之ヲ供託スヘシ

執行力アル債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第六百七十條、第六百七十二條及ヒ第六百七十三條ノ規定ニ依リテ之ヲ完結ス

第八百七十一條 競落人ノ申立アルトキハ競落決定ノ確定マテ配當表ノ實施ヲ延期スヘシ

第八百七十二條 競落人カ配當期日ニ於テ競落代金ヲ支拂ハサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命スル決定ヲ爲スヘシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

再競賣ハ最初ノ競賣ニ付キ定メタル競賣條件ニ依リテ之ヲ爲ス

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ競落代金、其利息及ヒ再競賣ノ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ其手續ヲ廢止スヘシ

競落ヲ許ス決定ハ再競賣ノ手續カ廢止セラレサル限りハ再競賣ヲ命スル決定ニ因リテ其效力ヲ失フ

第八百七十三條 最初ノ競落人ハ再度ノ競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ寡キトキハ其不足額、再競賣手續ノ費用其他義務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害賠償ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ最初ノ競落人カ支拂フヘキ金額及ヒ配當權利者カ受クヘキ金額ヲ確定スル決定ヲ爲シ最初ノ競落人及ヒ利害關係人ニ之ヲ送達スヘシ

配當權利者ハ前項ノ決定ニ因リ最初ノ競落人ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

最初ノ競落人ハ再競賣ニ加ハルコトヲ得ス再度ノ競落代金カ最初ノ競落代金ヨリ多キ場合ニ於テ其超過額ヲ請求スルコトヲ得ス

第八百七十四條 裁判所ハ配當表ノ實施及ヒ競落決定ノ確定ノ後決定正本及ヒ配當調書ヲ管轄登記所ニ送付シテ競落人ノ權利ノ登記、競落ニ因リテ消滅シタル不動産上權利ノ登記ノ抹消及ヒ強制競賣開始決定ノ登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ

前項ノ登記ノ費用ハ競落人之ヲ負擔スヘシ

第八百七十五條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得

入札拂ニ付テハ後三條ニ於テ特ニ定メタルモノヲ除ク外本款ノ規定ヲ準用ス

第八百七十六條 入札人ハ入札期日ニ於テ其氏名、住所、不動産及ヒ入札價額

ヲ表示シタル入札ヲ差出スヘシ

第八百七十七條 入札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ開封シ且之ヲ朗讀スヘシ

同價額ノ入札二箇以上アルトキハ追加入札ヲ爲サシメテ最高價入札人ヲ定ムヘシ

入札人カ追加入札ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リテ最高價入札人ヲ定ムヘシ

第八百七十八條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者カ擔保ヲ供スヘキコト

ヲ命セラレタルニ拘ハラズ之ヲ供セサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高

價入札人ト定ム

第八百七十九條 共有者ノ持分ノ強制競賣ニ付テハ本款ノ規ヲ準用ス

強制競賣開始ノ決定及ヒ手續ノ廢止又ハ一時停止ノ決定ハ他ノ共有者ニ之ヲ通知スヘシ

第三款 強制管理

第八百八十條 強制管理ノ申立及ヒ其申立ニ關スル決定ニ付テハ後四條ニ定メタルモノヲ除ク外強制競賣ノ申立及ヒ其申立ニ關スル決定ニ付キ定メタル規定ヲ準用ス

第八百八十一條 差押ノ效力ハ不動産ノ法定果實ヲ收取スル權利及ヒ不動産ノ從物ニ及フ

債務者ハ差押後ニ於テ不動産ノ管理及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得ス

第八百八十二條 裁判所ハ差押債權者又ハ管理人ノ申立ニ因リ第三債務者ニ

對シテ不動産ノ法定果實ヲ債務者ニ給付スルコトヲ禁スル決定ヲ爲スヘシ

第八百八十三條 強制管理ノ開始又ハ差押加入ヲ命スル決定ハ管理人ニモ之

ヲ送達スヘシ

強制管理ノ開始ヲ命スル決定ハ登記簿ノ謄本ニ表現スル利害關係人ニ之ヲ

通知スヘシ

三〇八

第八百八十四條 裁判所ハ執達吏ヲシテ不動産ヲ管理人ニ引渡サシメ又ハ管理人ヲシテ自ラ其引渡ヲ受ケシムヘシ但不動産ヲ占有スル第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百八十五條 管理人ハ裁判所之ヲ選任ス

裁判所ハ管理人ノ選任ニ付キ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第八百八十六條 管理人ハ一人トス但裁判所ハ必要ト認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得

數人ノ管理人アルトキハ其職務ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第八百八十七條 管理人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

第八百八十八條 管理人ハ不動産ノ管理及ヒ收益ニ付キ必要ナル一切ノ行爲

ヲ爲スヘシ

第八百八十九條 裁判所ハ管理人ヲ監督シ、管理人ニ對シテ指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

裁判所ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付キ利害關係人及ヒ鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

裁判所ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ二十圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ管理人ヲ解任スルコトヲ得

第八百九十條 管理人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其職務ヲ行フヘシ

管理人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第八百九十一條 管理人ハ其任務カ終了シタルトキハ利害關係人ニ計算ノ報告ヲ爲スヘシ

三〇九

管理人ハ利害關係人ヲシテ閱覽セシムル爲メ計算報告書ヲ裁判所ニ提出スヘシ

第八百九十二條 管理人ハ其任務カ終了シタルトキト雖モ後任ノ管理人又ハ債務者カ不動産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スヘシ
第八百九十三條 管理人ヲ選任シ、之ヲ解任シ又ハ其辭任ヲ聽許スル決定ハ管理人ニ之ヲ送達スヘシ

前項ノ決定ハ利害關係人及ヒ第三債務者ニ之ヲ通知スヘシ

第八百九十四條 管理ノ費用及ヒ手續ノ費用ハ不動産ノ收益ヨリ先ツ之ヲ控除スヘシ但強制管理ノ申立ノ費用ハ此限ニ在ラス

不動産上ノ權利者ハ共益、保存又ハ工事ノ費用、管理中納期日ノ到來シタル租稅其他ノ公課及ヒ管理中辨濟期ノ到來シタル利息其他ノ定期金ニ付テノ
ミ配當ヲ受ク

差押債權者ハ管理中辨濟期ノ到來シタル自己ノ利息其他ノ定期金及ヒ不動産上ノ權利者ノ利息其他ノ定期金ノ後ニ元本其他ノ給付ニ付キ配當ヲ受ク
第八百九十五條 租稅其他ノ公課ハ別段ノ手續ヲ經スシテ之ヲ支拂フヘシ

他ノ債權ニ付テハ利害關係人ノ協議ニ依リテ配當ヲ實施スヘク協議調ハサルトキハ管理人ヨリ其旨ヲ裁判所ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ配當期日ヲ定ムル決定ヲ爲スヘシ此決定ハ利害關係人及ヒ管理人ニ之ヲ送達シ且裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告スヘシ

配當期日ニ於テハ管理中實施スヘキ配當ニ付キ配當表ヲ作ルヘシ

第八百六十九條乃至第八百七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十六條 裁判所ハ配當表ヲ確定シタル後其實施ヲ管理人ニ命スヘシ

配當表ノ確定後ニ差押加入ヲ命シタルトキハ配當表ヲ變更シ配當實施ヲ命シタル決定ヲ追完スヘシ

第八百九十七條 不動産上ノ權利ヲ有スル債權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ權利ノ登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ
前項ノ登記ノ費用ハ所有者之ヲ負擔スヘシ

第八百九十八條 強制管理ノ廢止ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ命ス

差押債權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ廢止ヲ命スヘシ
手續ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要スル場合ニ於テ差押債權者カ其費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ強制管理ノ廢止ヲ命スルコトヲ得

第七百九十二條、第七百九十四條、第七百九十七條及ヒ第七百九十八條ノ規定ハ強制管理ノ廢止ニ付キ之ヲ準用ス

第八百九十九條 強制管理ノ廢止又ハ一時停止ヲ命スル決定ハ第三債務者ニ

モ之ヲ通知スヘシ

第五節 船舶ニ對スル強制執行

第九百條 登記スヘキ船舶ノ強制執行ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス

船舶ノ強制競賣ニ付テハ後五條ニ定メタルモノヲ除ク外不動産ノ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第九百一條 船舶ノ強制執行ニ付テハ申立ノ際船舶カ碇泊スル港又ハ現在スル地ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第九百二條 裁判所ハ強制競賣開始ノ決定ヲ以テ船舶ノ監守、保存其他必要ナル處分ヲ命スヘシ

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ決定ノ登記前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス
債權者カ處分ノ續行ニ付キ必要ナル費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ其處分ヲ取消スコトヲ得

第九百三條 法令ノ規定ニ依リ船舶所有者ニ非サル者ニ對シテ船舶ノ強制執行ヲ爲スコトヲ得ル者カ強制競賣ノ申立ヲ爲ストキハ其關係ヲ説明スヘシ

第九百四條 執行裁判所カ船籍港ヲ管轄スル區裁判所ニ非サルトキハ競賣期日ノ公告ヲ船籍港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ揭示場ニ揭示スヘキコトヲ囑託スヘシ

競賣期日ノ公告ニハ船舶ノ碇泊スル港又ハ現在スル地ヲ記載スヘシ

第九百五條 船舶ノ持分ノ強制執行ニ付テハ次條ニ定メタルモノノ外第七百六十一條ノ規定ヲ準用ス

第九百六條 船舶ノ持分ノ強制競賣ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス
申立ニハ債務者ノ持分ヲ證スヘキ登記簿ノ抄本又ハ他ノ書面ヲ添附スヘシ

差押命令ハ船舶管理人ニモ之ヲ送達スヘシ

船舶管理人カ送達ヲ受ケタルトキハ債務者カ送達ヲ受ケタルト同一ノ效力ヲ生ス

第九百七條 日本ノ法令ニ依レハ登記スヘキ外國ノ船舶ノ強制執行ニ付テハ登記ニ關スルモノヲ除ク外本節ノ規定ヲ準用ス

第六節 共有物ノ分割ヲ目的トスル強制競賣

第九百八條 共有者ハ民法第二百五十八條第二項ノ規定ニ依リテ不動産又ハ船舶ノ競賣ヲ命シタル判決ニ基キ強制競賣ノ申立ヲ爲シ其持分ニ應シテ競落代金ノ配當ヲ受クルコトヲ得

前項ノ強制競賣ニ付テハ次條ニ定メタルモノノ外前二節ノ規定ヲ準用ス

第九百九條 最低競買額申込ノ確定ニ付テハ申立人ノ持分カ擔保タル又ハ其持分ト共ニ他ノ共有者ノ持分カ擔保タル債權及ヒ其債權ト同順位ナル又ハ

其債權ヨリ優先ナル債權ヲ斟酌スヘシ

前項ノ規定ニ依リテ斟酌スヘキ債權額ノ中一人ノ持分ノ負擔ニ屬スル部分
カ他ノ共有者ノ持分ノ負擔ニ屬スル部分ヨリ多キトキハ持分ノ割合ト其負
擔部分ノ割合トヲ平均ナラシムル爲メ必要ナル金額ヲ前項ノ債權額ニ加ヘ
タルモノヲ以テ最低競買申込額ト爲スヘシ

第三章 物ノ引渡又ハ作爲若クハ不作爲ニ關スル強制執行

第九百十條 債務者カ特定ノ動産又ハ特定ノ動産中ヨリ一定ノ數量又ハ代替
物ノ一定ノ數量ヲ引渡スヘキトキハ執達吏ハ其物ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ
債權者ニ引渡スヘシ

第九百十一條 前條ノ規定ハ債務者カ有價證券ノ一定ノ員數ヲ引渡スヘキ場
合ニ之ヲ準用ス

第九百十二條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ之ヲ明渡

スヘキトキハ執達吏債務者ノ占有ヲ解キ債權者ヲシテ其占有ヲ得セシムヘ
シ

強制執行ノ目的ニ屬セサル動産アルトキハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引
渡スヘシ債務者ノ在ラサルトキハ其代理人又ハ其成長シタル家族若クハ雇
人ニ之ヲ引渡スヘシ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者ノ在ラサルトキハ取除キタル動産ハ債務者ノ
費用ヲ以テ適宜之ヲ保管スヘシ

債務者カ取除キタル動産ヲ受取ルコトヲ遅延スルトキハ執達吏ハ執行裁判
所ノ許可ヲ得テ差押動産ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ賣却シ其代金ノ中
ヨリ費用ヲ控除シテ剩餘金ヲ供託スヘシ

第九百十三條 第三者カ債務者ノ引渡スヘキ物ヲ所有スル場合ニ於テ債權者
ニ其引渡ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ金錢ノ

債權取立命令ニ關スル規定ニ從ヒ引渡ヲ求ムル債務者ノ權利ヲ債權者ニ移付スル決定ヲ爲スヘシ

第九百十四條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲スヘシ

債權者ハ前項ノ申立ヲ爲スニ方リ行爲ニ必要ナル費用ヲ豫メ支拂ハシムル決定ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得但其行爲ニ付キ最初求メタルヨリ多額ノ費用ヲ要スルトキハ更ニ其請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第九百十五條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキ旨又ハ直チニ損害賠償ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第九百十六條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定

前ニ債務者ヲ審訊スヘシ

第九百十七條 意思表示ヲ爲スヘキコトヲ宣言シタル判決カ確定シタルトキハ債務者ハ其確定ノ時ヲ以テ意思表示ヲ爲シタルモノト看做ス

債務者カ反對給付ヲ受ケテ意思表示ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ第六百四十三條第二項及ヒ第六百四十六條ノ規定ニ依リ執行正本ヲ付與シタル時ヲ以テ其意思表示ヲ爲シタルモノト看做ス

第九百十八條 第九百十條ノ規定ハ債務者カ人ノ引渡ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 假差押及ヒ假處分

第九百十九條 假差押ハ金錢ヲ目的トスル請求又ハ金錢ノ請求ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲ス

第九百二十條 假差押ハ請求カ辨濟期ニ在ラサルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ

得

第九百二十一條 假差押ハ後日強制執行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル虞アル場合又ハ外國ニ於テ強制執行ヲ爲スニ至ルヘキ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第九百二十二條 假差押ノ申立ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 請求ノ表示
- 二 假差押ノ原因

請求ノ目的カ一定ノ金額ニ非サルトキハ其價額ヲ記載シ裁判所ノ管轄カ假差押ノ目的物ノ所在地ニ依リテ定マルトキハ目的物及ヒ其所在地ヲ記載スヘシ

第九百二十三條 假差押ノ申立ニ關スル裁判ハ本案ノ管轄裁判所又ハ假差押ノ目的物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄トス

第九百二十四條 請求ノ原因及ヒ假差押ノ原因ハ之ヲ説明スヘシ

第九百二十五條 裁判所ハ債權者カ請求ノ原因及ヒ假差押ノ原因ヲ説明セサルトキト雖モ假差押ニ因リテ債務者ノ受クヘキ損害ニ付キ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル擔保ヲ供シタルトキハ假差押ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ債權者カ請求ノ原因及ヒ假差押ノ原因ヲ説明シタルトキト雖モ擔保ヲ供セシメテ假差押ヲ命スルコトヲ得

債權者カ擔保ヲ供シタルトキハ假差押ヲ命スル裁判ニ其供シタル擔保ヲ表示スヘシ

第九百二十六條 假差押ノ申立ニ關スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押決定ハ債權者ノ申立ニ因リテ之ヲ債務者ニ送達スヘシ

假差押ノ申立ヲ却下シ又ハ擔保ヲ供スルコトヲ命スル決定ハ之ヲ債務者ニ

送達スルコトヲ要セス

假差押決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百二十七條 假差押決定ニハ債務者カ假差押ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコ

トヲ得ル爲メ供託スヘキ金額ヲ記載スヘシ

第九百二十八條 本案カ未タ繫屬セザルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立

ルニ因リテ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ訴ヲ起スコトヲ債權者ニ命スル決定

ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

債權者カ第一項ノ期間内ニ訴ヲ起サザルトキハ債務者ハ假差押裁判所ニ假

差押決定ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

第九百二十九條 前條ノ規定ニ依リテ取消ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ其

當否ニ付キ決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ノ當否ニ關スル事由ハ之ヲ説明スヘシ

第九百三十條 債務者ハ假差押ノ原因カ消滅シ其他事情ノ變更アリタルトキ

又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル擔保ヲ供スル申出ヲ爲シタルトキハ假差押

決定ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ假差押裁判所ニ之ヲ爲シ本案カ繫屬スルトキハ本案ノ裁判所

ニ之ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ第一項ノ申立アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九百三十一條 本章ノ規定ニ依ル申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト

ヲ得

第九百三十二條 假差押決定カ不當ナル爲メ取消サレタルトキハ債權者ハ債

務者カ假差押ニ因リ又ハ其停止若クハ取消ノ爲メ擔保ヲ供シタルニ因リテ

受ケタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス假差押決定カ第九百二十八條ノ規定ニ依
リテ取消サレタルトキ亦同シ

第九百三十三條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但後
四條ノ規定ニ因リテ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第九百三十四條 假差押決定ニハ其決定アリタル後債權者又ハ債務者ニ承繼
アリタル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押決定ノ執行ハ其決定ヲ言渡シ又ハ之ヲ債權者ニ送達シタル時ヨリ十
四日ノ期間ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

假差押決定ノ執行ハ其決定ヲ債務者ニ送達セサル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ
得但執行ノ時ヨリ七日内ニ送達ノ申立ヲ爲ササルトキハ假差押決定ノ執行
ハ其效力ヲ失フ

第九百三十五條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

債權ニ對スル假差押ノ執行ハ執行命令ヲ以テ之ヲ爲ス

債權ニ對スル假差押ニ付テハ假差押裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス
差押ヘタル金錢ハ之ヲ供託スヘシ

執行裁判所ハ假差押ノ目的物カ著シク價格ヲ減少スル虞アルトキ又ハ其貯
藏ニ付キ不相應ノ費用ヲ要スルトキニ限り申立ニ因リ強制執行ニ關スル規
定ニ從ヒテ之ヲ換價シ其賣得金ヲ供託スヘキ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第九百三十六條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押決定ヲ不動産登記簿
ニ記入スルコトヲ囑託シテ之ヲ爲ス

第九百三十七條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押決定ヲ船舶登記簿ニ記
入スルコトヲ囑託シテ之ヲ爲ス

裁判所ハ必要ト認ムルトキハ申立ニ因リテ船舶ノ監守及ヒ保存ニ必要ナル
處分ヲ命スルコトヲ得

第九百三十八條 債務者カ假差押決定ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リテ假差押ノ取消ヲ命スヘシ
債權者カ假差押ノ續行ニ付キ必要ナル費用ヲ豫納セサルトキハ執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第九百三十九條 假處分ハ係争物ノ現状ノ變更ニ因リ後日強制執行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スヘキ虞アル場合ニ於テ強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲ス

第九百四十條 假差押ニ關スル規定ハ之ヲ假處分ニ準用ス但後四條ノ規定ニ因リテ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第九百四十一條 假處分ノ申立ニ關スル裁判ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄トス

假處分決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第九百四十二條 裁判所ハ其意見ヲ以テ假處分ノ目的ヲ達スルニ必要ナル方法ヲ定ムヘシ

假處分ハ管理人ヲ選任シ又ハ債務者ニ或行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁スルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

假處分決定ヲ以テ不動産若クハ不動産上ノ權利ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ其假處分決定ヲ不動産登記簿ニ登記スルコトヲ囑託スヘシ

第九百四十三條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキニ限り債務者ヲシテ擔保ヲ供セシメ假處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得

假處分ヲ取消ス決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第九百四十四條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所

ハ假處分ノ當否ニ關スル本案ノ管轄裁判所ノ裁判ヲ求ムル爲メ申立ヲ爲ス
ヘキ期間ヲ定メテ假處分決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ區裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ其假處分
決定ヲ取消スヘシ

第九百四十五條 假處分ニ關スル前五條ノ規定ハ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急
迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ノ存スル爲メ争ニ係ル法律關係ニ付
キ假ノ状態ヲ定ムル必要アル場合ニ之ヲ準用ス

第九百四十六條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス
但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキハ控訴裁判所トス

第九百四十七條 急迫ナル場合ニ於テハ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲
スコトヲ得

第九編 公示催告手續

第九百四十八條 權利届出ノ公示催告ハ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲ス

コトヲ得

公示催告ハ權利ノ届出ヲ爲ササル者ニ法律上不利益ナル結果ヲ生スル效力
ヲ有ス

第九百四十九條 公示催告手續ハ區裁判所ノ管轄トス

第九百五十條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第九百五十一條 公示催告ノ申立ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコ
トヲ得

裁判所ハ申立ヲ許スヘキトキハ公示催告ヲ爲スヘシ

第九百五十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申立人ノ表示
- 二 公示催告期日

三 公示催告期日又ハ其前ニ權利ノ届出ヲ爲スヘキ旨ノ催告

四 届出ヲ爲ササルニ因リテ生スル法律上ノ利益ナル結果ノ表示

第九百五十三條 第七十七條第三項及ヒ第四項ノ規定ハ公示催告ノ公告ニ之ヲ準用ス

第九百五十四條 公示催告ヲ最後ニ官報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニ存スヘキ公示催告期間ハ二个月以上ナルコトヲ要ス

第九百五十五條 公示催告期日ノ終ハリタル後ト雖モ除權判決前ニ權利ノ届出アリタルトキハ適當ノ時期ニ其届出アリタルモノト看做ス

第九百五十六條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

申立人カ公示催告期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ除權判決ノ申立ヲ爲シタルトキハ期日ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

裁判所ハ除權判決ヲ爲ス前ニ詳細ノ探知ヲ爲スニ必要ナル手續ヲ爲スコト

ヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ附シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百五十七條 届出テタル權利ニ基キテ申立ノ理由タル申立人ノ權利ヲ爭

フ者アルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒ届出アリタル權利ニ關スル裁判ノ確定

ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ其權利ヲ留保スヘシ

第九百五十八條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セス又ハ其期日前ニ除權判決

ノ申立ヲ爲ササリシトキハ裁判所ハ申立ニ因リテ新期日ヲ定ムヘシ

新期日ノ指定ヲ求ムル申立ハ公示催告期日ヨリ六个月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九百五十九條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタル場合ニ於テハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第九百六十條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル趣旨ヲ官報ニ掲載シテ其公告ヲ爲スコトヲ得

第九百六十一條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ申立人ニ對スル訴ヲ以テ公示催告ヲ爲シタル裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ除權判決ニ對スル不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

- 一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ササルトキ
- 二 公示催告ノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ其公告ヲ爲ササルトキ

三 公示催告期間ヲ遵守セサルトキ

四 判事カ法律ニ依リテ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

五 權利ノ届出アリタルニ拘ハラヌ法律ニ違背シ判決ニ於テ其届出ヲ斟酌セサルトキ

酌セサルトキ

六 第五百二條第一項第一號乃至第五號ノ規定ニ依ル再審ノ訴ノ要件カ存在スルトキ

第九百六十二條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ原告カ除權判決ヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算ス但前條第四號又ハ第六號ニ掲ケタル理由ニ基キテ不服申立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ル場合ニ於テ原告カ除權判決ヲ知りタル時ニ其理由ヲ知ラサリシトキハ之ヲ知りタル時ヨリ前項ノ期間ヲ起算ス

除權判決ノ言渡ヨリ五ヶ年ヲ經過シタルトキハ不服申立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第九百六十三條 裁判所ハ數箇ノ公示催告手續ヲ併合スルコトヲ得

第九百六十四條 公示催告手續ニ於テ爲ス公告ハ裁判所ノ命ニ因リテ裁判所書記之ヲ取扱フ

第九百六十五條 喪失シタル指圖證券、無記名證券又ハ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ノ無效ヲ宣言スル爲メニ爲ス公示催告ニ付テハ後十四條ノ規定ヲ適用ス

第九百六十六條 無記名證券又ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アル指圖證券ニ付テハ最後ノ所持人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ニ掲ケサル書面ニ付テハ書面ニ因リテ權利ヲ主張スルコトヲ得ル者ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第九百六十七條 公示催告手續ハ書面ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ノ管轄トス但其地ナキトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ノ管轄トシ其普通裁判籍ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有シタル

ル地ノ裁判所ノ管轄トス

第九百六十八條 申立人ハ書面ノ謄本ヲ提出シ又ハ書面ノ重要ナル趣旨及ヒ書面ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル事項ヲ開示シ且書面ノ喪失及ヒ申立ヲ爲ス權利ノ原因タル事實ヲ説明スヘシ

第九百六十九條 公示催告ニハ書面ノ所持人ハ公示催告期日又ハ其前ニ裁判所ニ權利ヲ届出テ且書面ヲ提出スヘキ旨ノ催告及ヒ權利ノ届出竝ニ書面ノ提出ヲ爲ササルトキハ證書ノ無效ヲ宣言スヘキ旨ノ戒告ヲ記載スヘシ

第九百七十條 公示催告ヲ爲シタル裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ公示催告ノ公告ヲ揭示スヘシ

第九百七十一條 公示催告期間ハ六個月以上ナルコトヲ要ス

第九百七十二條 書面ノ所持人カ公示催告期日前ニ其權利ヲ届出テ且書面ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ其旨ヲ申立人ニ通知シ且相當ト認ムル期間内ニ

於テ申立人ニ書面ノ閱覽ヲ爲サシムヘシ

書面所持人ノ申立アルトキハ裁判所ハ書面提出ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニ於テ申立人ニ書面ノ閱覽ヲ爲サシムヘシ

第九百七十三條 除權判決ニ於テハ書面ヲ無効ナリト宣言スヘシ

除權判決ノ重要ナル趣旨ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

除權判決ニ對スル不服申立ノ訴アリタル場合ニ於テ無効ノ宣言カ判決ニ因リテ取消サレタルトキハ公示催告ヲ爲シタル裁判所ハ判決ノ確定後申立ニ因リ官報ヲ以テ其旨ヲ公告スヘシ

第九百七十四條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ書面ニ因リテ義務ヲ負擔スル者ニ對シ書面ニ因ル權利ヲ主張スルコトヲ得

除權判決ニ因リテ辨濟ヲ爲シタル者ハ除權判決カ不服申立ノ訴ニ因リテ取消サレタル場合ニ於テモ其辨濟ヲ以テ債權者又ハ第三者ニ對抗スルコトヲ

得但辨濟ノ當時除權判決カ取消サレタルコトヲ知りタルトキハ此限ニ在ラス

第九百七十五條 無記名證券ノ無効ヲ宣言スル爲メ公示催告ヲ爲スコトヲ求

ムル申立アリタル場合ニ於テ其申立ヲ許スヘキトキハ裁判所ハ申立ニ因リ

口頭辯論ヲ經スシテ發行人ニ對シ支拂ヲ差止ムル命令ヲ爲スヘシ

前項ノ命令ニハ公示催告手續ノ始マリタル旨ヲ附記スヘシ

第九百七十六條 支拂差止ノ命令ヲ求ムル申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第九百七十七條 支拂差止ノ命令ハ公示催告ノ公告ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ公告スヘシ

第九百七十八條 喪失シタル書面ノ提出又ハ其他ノ事由ニ因リ除權判決ノ言渡ナクシテ公示催告手續カ終了シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ支拂差止

ノ命令ヲ取消ス決定ヲ爲スヘシ
書面ノ提出アリタル場合ニ於テハ第九百七十二條ノ規定ニ從ヒ公示催告ノ
申立人ニ書面ノ閲覧ヲ許シタル後前項ノ決定ヲ爲スヘシ
支拂差止ノ命令ヲ取消ス決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲ス此決定ニ對シ
テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九百七十九條 支拂差止ノ命令ヲ公告シタルトキハ其公告ト同一ノ方法ニ
依リテ支拂差止命令ノ取消ヲ公告スヘシ

第十編 仲裁手續

第九百八十條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ法律上ノ争ニ付キ判斷ヲ爲サシ
ムルコトヲ目的トスル仲裁契約ハ當事者カ争ニ係ル請求又ハ法律關係ニ付
キ和解ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限り其效力ヲ生ス
仲裁契約ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九百八十一條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ法律關係及ヒ其法律關
係ヨリ生スル争ニ關スルトキニ非サレハ其效力ヲ生セス

第九百八十二條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者雙方
各一人ノ仲裁人ヲ選定ス

第九百八十三條 仲裁人ノ選定ハ書面ヲ以テ相手方ニ通知スルニ因リ之ヲ爲
ス

第三者カ仲裁人ヲ選定スルトキハ其通知ハ當事者雙方ニ對シテ之ヲ爲スヘ
シ

仲裁人ノ選定ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第九百八十四條 當事者ノ一方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ相手
方ハ仲裁人ヲ選定スヘキ旨ヲ之ニ催告シ其催告ヨリ七日ノ期間内ニ選定ヲ
爲サシムルコトヲ得

第三者カ仲裁人ヲ選定スヘキトキハ各當事者ハ前項ノ期間内ニ仲裁人ノ選
定ヲ爲スヘキ旨ヲ其第三者ニ催告スルコトヲ得

第九百八十五條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ其一
方ハ仲裁人ノ選定ヲ相手方ニ通知シ其通知ヨリ七日ノ期間内ニ仲裁人ヲ選
定スヘキ旨ヲ之ニ催告スルコトヲ得

第九百八十六條 前二條ノ規定ニ依リテ仲裁人選定ノ催告ヲ受ケタル者カ適
當ノ時期ニ仲裁人ヲ選定セサルトキハ管轄裁判所ハ催告者ノ申立ニ因リテ
仲裁人ヲ選定スヘシ

第九百八十七條 仲裁契約ニ於テ選定シタル者ニ非サル仲裁人カ死亡其他ノ
原因ニ因リテ缺ケタルトキ又ハ其任務ノ引受若クハ履行ヲ拒ミタルトキハ
其仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有シタル當事者ハ相手方ノ催告アル場合ニ於テ
其催告ヨリ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定スヘシ

前條ノ規定ハ催告ヲ受ケタル當事者カ適當ノ時期ニ仲裁人ヲ選定セサル場
合ニ之ヲ準用ス

第九百八十八條 判事ノ忌避ニ關スル規定ハ仲裁人ノ忌避ニ之ヲ準用ス
仲裁契約ニ於テ選定シタル者ニ非サル仲裁人カ其任務ノ履行ヲ遅延シタル
トキハ之ヲ忌避スルコトヲ得

仲裁人カ婦女、未成年者、破産者、公權剝奪者、禁治産者又ハ準禁治産者ナル
トキハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第九百八十九條 仲裁契約ハ左ノ場合ニ於テ其效力ヲ失フ但當事者カ其場合
ニ付キ豫メ必要ナル定ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

- 一 仲裁契約ニ於テ選定シタル仲裁人カ死亡其他ノ原因ニ因リテ缺ケタ
ルトキ、職務ノ引受若クハ履行ヲ拒ミ又ハ其履行ヲ遅延シタルトキ
- 二 仲裁人カ第九百九十四條ノ規定ニ從ヒテ決議ヲ爲スコト能ハサル旨

ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第九百九十條 仲裁人ハ仲裁判斷ヲ爲ス前ニ當事者雙方ヲ審訊シ且必要ナル場合ニ於テハ争ノ原因タル事實ヲ調査スヘシ

當事者カ仲裁手續ニ付キ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ仲裁人ハ其意見ヲ以テ仲裁手續ヲ定ムヘシ

第九百九十一條 仲裁人ハ任意ニ出頭シタル證人又ハ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第九百九十二條 仲裁人カ裁判所ニ非サレハ爲スコトヲ得サル行爲ヲ必要ト認メタルトキハ管轄裁判所ハ當事者ノ一方ノ申立ニ因リテ其行爲ヲ爲スヘシ但其申立ヲ許スヘカラサルトキハ此限ニ在ラス

證人又ハ鑑定人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ又ハ之ニ宣誓ヲ命シタル裁判所ハ證

人又ハ鑑定人カ陳述又ハ宣誓ヲ拒ミタル場合ニ於テ第三百五十條及ヒ第三百五十四條ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲スコトヲ得

第九百九十三條 法律上有效ナル仲裁契約カ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ヲ爲スヘキ争ニ關セサルコト、仲裁人カ其資格ヲ有セサルコト其他仲裁手續ノ許スヘカラサルコトニ付キ争アルトキト雖モ仲裁人ハ其手續ヲ履行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第九百九十四條 仲裁判斷ハ仲裁人ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第九百九十五條 仲裁判斷ニハ其理由及ヒ作成ノ年月日ヲ記載シ且仲裁人ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

仲裁人ハ其署名、捺印シタル仲裁判斷ノ正本ヲ當事者ニ送達シ且仲裁判斷ノ原本ヲ管轄裁判所ノ書記課ニ預ケ置クヘシ

當事者ノ爲ス送達ニ關スル規定ハ仲裁判斷ノ送達ニ之ヲ準用ス

第九百九十六條 仲裁判斷ハ之ヲ當事者ニ送達シタルトキハ其間ニ於テ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス

第九百九十七條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ限り相手方ニ對スル訴ヲ以テ之ヲ申立ツルコトヲ得

- 一 仲裁判斷ヲ許スヘカラサルトキ
- 二 仲裁判斷ニ於テ法律ノ禁シタル行爲ヲ當事者ニ命シタルトキ
- 三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ
- 四 仲裁判斷ニ理由ヲ附セサルトキ
- 五 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ
- 六 第五百二條第一項第一號乃至第五號ノ規定ニ依ル再審ノ訴ノ要件カ存在スルトキ

當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ第四號乃至第六號ニ掲ケタル原因ニ因リテ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九百九十八條 仲裁判斷ニ因ル強制執行ハ執行判決ヲ以テ許スヘキコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル原因カ存在スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九百九十九條 執行判決アリタル後ハ第九百九十七條第一項第一號乃至第五號ニ掲ケタル原因ニ因リテ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ス但當事者カ其過失ナクシテ執行判決前ニ取消ノ原因ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明シタルトキハ此限ニ在ラス

第一千條 前條ノ場合ニ於テハ仲裁判斷取消ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ當事者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス但執行判決
カ其後ニ確定シタルトキハ其確定シタル時ヨリ之ヲ起算ス
執行判決ノ確定シタル時ヨリ五ヶ年ヲ經過シタルトキハ取消ノ訴ヲ提起ス
ルコトヲ得ス

裁判所カ仲裁判斷ヲ取消ストキハ同時ニ執行判決ノ取消ヲ言渡スヘシ

第一千條 仲裁人ノ選定若クハ忌避又ハ仲裁契約ノ效力ニ關スル裁判及ヒ仲
裁人カ必要ト認メタル裁判所ノ行爲ヲ求ムル申立ニ關スル裁判ハ仲裁契約
ニ於テ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄トシ其指定ナキトキハ請
求ニ關スル訴ヲ管轄スヘキ區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄トス

第十二條 前條ノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之
ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前ニ相手方ヲ審訊スヘシ

前條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判所カ裁判ヲ言渡シタルトキハ即時抗告ノ期間ハ其言渡ヨリ之ヲ起算ス
第一千三條 第一千一條ニ掲ケタル裁判所ハ仲裁手續ヲ許スヘカラサルコトヲ主
張スル訴及ヒ仲裁判斷ノ取消又ハ執行判決ヲ求ムル訴ニ付キ管轄權ヲ有ス
第一千四條 第一千一條及ヒ前條ノ規定ニ因リ管轄權ヲ有スル數箇ノ裁判所アル
トキハ最初ニ仲裁手續ニ干與シタル裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

明治三十六年七月十二日印刷
明治三十六年七月廿五日發行

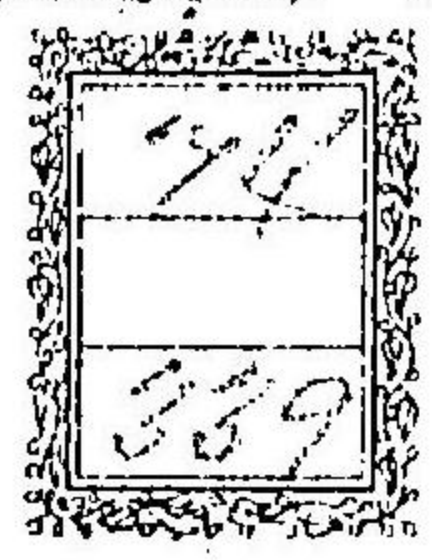
司 法 省

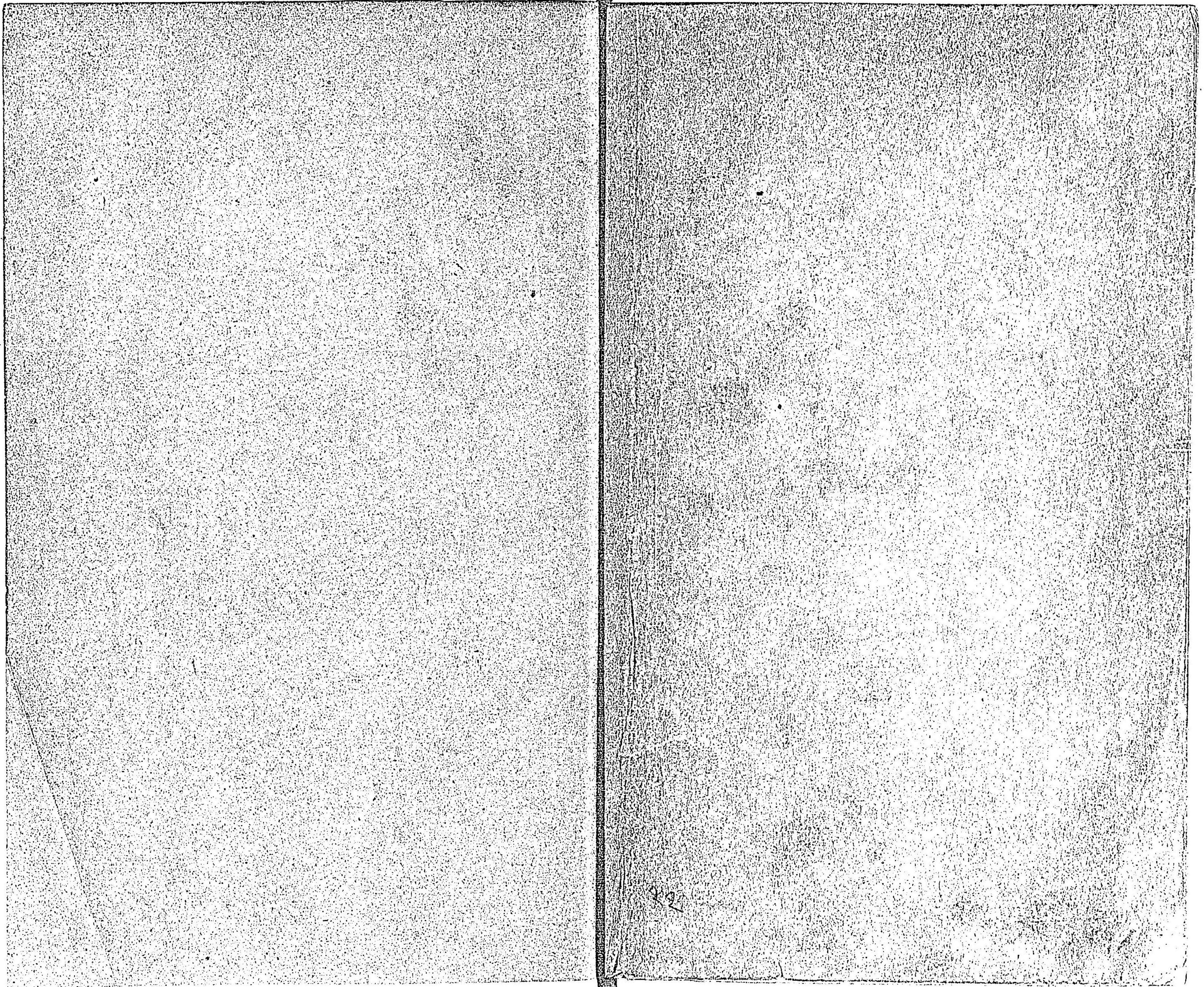
發行人 東京市芝區琴平町三番地 十時權次郎

印刷人 東京市京橋區京橋水谷町七番地 山村郁作

發行所 東京市京橋區采女町十五番地 東京通信社

印刷所 東京市京橋區京橋水谷町七番地 日進舍

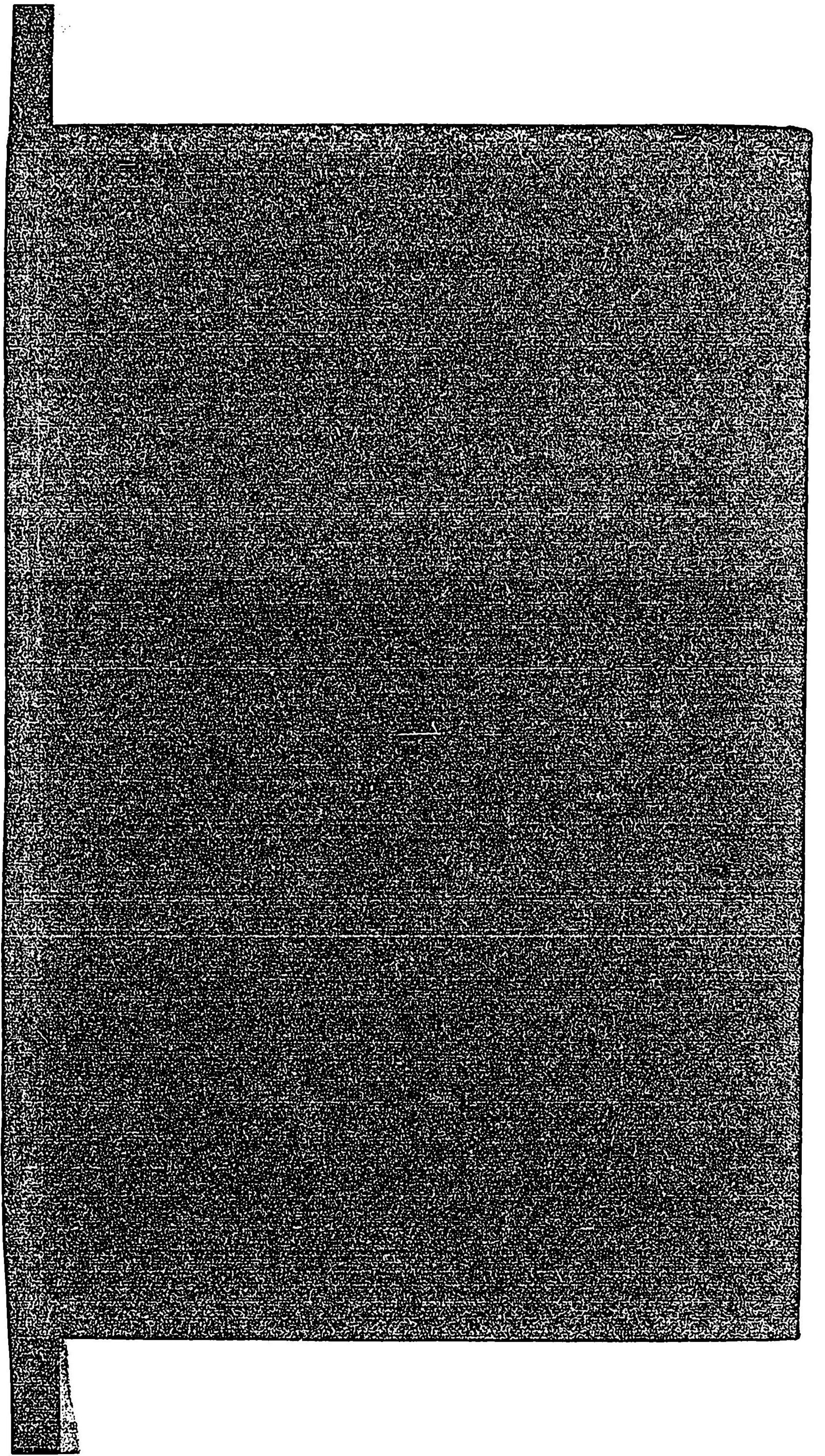




22

74

339





禁電子式複写

037141-000-2

CZ-785-03

民事訴訟法改正案

司法省/編

M36

BBS-0733



